

2-2 仙台管内(東北)

仙台管区気象台業務履歴

- 1970(昭和45). 3. 67型磁気テープ記録式電磁地震計の速報装置を設置し、盛岡・大船渡・秋田・山形の波形データを受信、試験運用開始。
- 1970(昭和45). 6. 1 速報受信装置(速報装置付67型地震計設置官署(盛岡・大船渡・秋田・山形)の波形を電話回線で伝送し、地方中枢で受信する装置、等P差表示器(速報受信装置で受信した波形を用いて、緊急震源決定する装置)、及び半自動解析装置(67型地震計設置官署から送られて来る磁気テープを編集・解析する装置)設置、正式運用開始。
- 1971(昭和46). 6. 1 67型磁気テープ式記録式電磁地震計(石巻、小名浜、白河、八戸、青森)、正式運用開始。
- 1975(昭和50). 4. 1 北部広域地震観測システム(札幌・仙台系。根室・寿都・本荘)設置試験運用。
- 1975(昭和50). 4. 23 広域地震観測装置、正式運用開始。
- 1976(昭和51). 9. 20 中域震度計試験運用開始。
- 1977(昭和52). 10. 18 67型の速報装置、秋田から白河に移設。これにより、仙台では、盛岡・大船渡・山形・白河の波形を隔測。
- 1981(昭和56). 年度 仙台 L-ADESS整備。
- 1981(昭和56). 3. 鮎川の検潮隔測装置を石巻に移設(検潮テレメータ受信装置を設置)。また、津波予報中枢の仙台で管内6地点(深浦・八戸・宮古・大船渡・鮎川・小名浜)の潮位モニターが可能になった。
- 1990(平成 2). 1. 13 ETOS機器搬入、取付け調整開始。
- 1990(平成 2). 3. 9 地震波形伝送装置(「FATEC」)撤去。
- 1990(平成 2). 3. 1 ETOS運用開始。
- 1990(平成 2). 3. 6 IDL/A端末、67型Bラック、検潮記録器撤去。
- 1990(平成 2). 4. 25 88型小地震観測装置を設置した、青森3・秋田2・宮古2・小名浜2・白河2のテレメータ伝送開始。 1990(平成 2). 4. 26 ETOS二重系完成。
- 1991(平成 3). 5. 18 八戸2に88型小地震観測装置を設置し、テレメータ伝送開始。
- 1992(平成 4). 3. 19 盛岡2に88型小地震観測装置を設置し、テレメータ伝送開始。
- 1994(平成 6). 4. 1 緊急情報衛星同報受信装置、運用開始。
- 1994(平成 6). 9. 21 ETOSオンラインデータ津波地震早期検知網データに切替え運用開始。これに伴い、67型及び76型磁気テープ記録式電磁地震計、運用中止となる。
- 1985(昭和60). 1. 21 秋田港第一港湾検潮所の潮位データが秋田地方気象台を経由し、仙台管区へ隔測化。
- 1995(平成 7). 1. 30 酒田(第一港湾)の潮位データが、仙台管区へ隔測化。
- 1995(平成 7). 4. 1 津波観測実施官署としての業務中止。仙台ETOSからの「ケンソク報」発信業務開始。
- 1996(平成 8). 3. 一元化関連機器設置のため現業室改修工事。
- 1996(平成 8). 3. 一元化関連機器整備。
- 1996(平成 8). 3. 31 青森3・八戸2・秋田2・白河2の88型小地震観測装置、運用中止。
- 1996(平成 8). 4. 1 体感による震度観測中止。
- 1997(平成 9). 10. 1 一元化処理業務運用開始。
- 1999(平成11). 4. 1 新ETOS運用開始。
- 2001(平成13). 10. 1 一元化処理の強化(Hi-net観測点追加)。

青森県

青森:Aomori

JMAコード:AOMORI、USGSコード:AOM

官署来歴

- 1882(明治15). 1. 1 青森測候所創立。(内務省地理局所管)
- 1887(明治20). 4. 1 地方移管、青森県立青森測候所。(青森県所管)
- 1937(昭和12). 10. 28 中央気象台青森測候所、新設。(国営、文部省所管)
- 1938(昭和13). 7. 15 青森県青森測候所廃止、業務を国営に引継ぐ。
- 1939(昭和14). 11. 1 青森測候所となる。
- 1957(昭和32). 9. 1 青森地方気象台となる。

震度観測点位置

1882(明治15).	1. 1	陸奥国東津軽郡大野村字長島 (現、青森市長島1番地 青森県庁構内) N 40° 51' E 140° 45' H 3.3m
1888(明治21).	10. 1	青森村新町大手通り (現、青森市長島大字長島 177番地 青森県庁北棟 気圧計のみ青森警察署内に移転) N 40° 50' E 140° 45' H 3.3m(気)
1889(明治22).	4. 1	青森町新町大手通り(住居表示変更)
1898(明治31).	4. 1	青森市新町大手通り(住居表示変更)
1911(明治44).	5. 5	青森市長島大字長島 177番地 青森警察署内(2階) N 40° 50' E 140° 45' H 3.3m
1928(昭和 3).	1. 1	東津軽郡浜館村大字松森字佃 155番地 N 40° 49.2' E 140° 46.9' H 3.6m (国営)
1937(昭和12).	10. 28	東津軽郡油川町 青森飛行場内
1938(昭和13).	7. 15	東津軽郡浜館村大字松森字佃 155番地 N 40° 49.2' E 140° 46.9' H 3.6m (県立測候所観測位置に移設)
1939(昭和14).	6. 14	青森市大字油川町字大浜25番地 N 40° 51' E 140° 42' H 2.7m (油川小学校跡に新築移転。県営時代の旧庁舎は 中央气象台佃臨時出張所となる)
1956(昭和31).	1. 1	青森市大字松森字佃 155番の 4 N 40° 49.2' E 140° 46.9' H 5.3m(気) (佃臨時出張所観測位置に移転、元の位置に戻る)
1986(昭和62).	11. 1	青森市佃 2丁目 5番 4号(住居表示変更)
1989(平成 1).	12. 1	青森市花園 1丁目17番19号 N 40° 49.2' E 140° 46.3' H 3.4m

地震観測履歴

1882(明治15).	1. 1	体感による地震観測開始。
1904(明治37).	10.	大森式地動計設置、観測開始。
1912(大正 1).	11. 19	今村式地震計(水平動のみ)、観測開始。大森式地動計、観測中止。
1926(大正15).	.	今村式水平動強震計(IL、教育品製造製 No129、制振なし 倍率2倍、固有周期南北動5.8秒、東西動6.4秒)時計、Waltham 19042143、電信報時。
1926(大正15).	.	大森式簡単微動計設置。
1927(昭和 2).	.	今村式地震計、観測中止。
1928(昭和 3).	.	今村式2倍強震計設置、百年史には中央气象台型強震計(2倍)とあるが、写真で見 る限り今村式強震計である。
1939(昭和14).	8. 1	ウィーヘルト式地震計(アレス、3成分)観測開始。 大森式簡単微動計、観測中止。
1950(昭和25).	11. 1	50型強震計(すず書き。気象測器製作所製)観測開始。
1951(昭和26).	7. 1	51型感震器、観測開始。
1955(昭和30).	12. 23	移転のため地震観測休止。
1956(昭和31).	1. 24	移転完了、地震観測再開。
1960(昭和35).	.	59型くん煙装置(ウィーヘルト式・強震計の記象紙用)設置。
1962(昭和37).	年度	50型強震計に振止め装置及び刻時装置を取付け。
1964(昭和39).	3. 1	61型感震器設置。
1969(昭和44).	11. 17	50型強震計、すず書きをインク書きに改造。
1971(昭和46).	2. 12	67型磁気テープ記録式電磁地震計(地上型)設置、試験運用開始。
1971(昭和46).	6. 1	67型磁気テープ記録式電磁地震計、正式観測開始。ウィーヘルト式地震計、観測 中止。

- 1974(昭和49). 10. 20 59B型直視式電磁地震計設置工事開始。
 1975(昭和50). 1. 10 59B型直視式電磁地震計設置、試験観測開始。
 1975(昭和50). 4. 1 59B型直視式電磁地震計、正式観測開始。
 1978(昭和53). 6. 12 76型磁気テープ記録式電磁地震計、試験運用開始。(青森地方気象台で隔測観測。感部は青森の南西46kmの所)
 1978(昭和53). 8. 15 76型磁気テープ記録式電磁地震計、正式運用開始。
 1981(昭和56). 年度 仙台 L-ADESS整備。地震資料伝送装置及び強震計変換器設置。67型及び強震計(水平成分)、青森2の76型の地震波形を電話回線により仙台に伝送(八戸の67型と強震計を中継)。
 1988(昭和63). 7. 30 87型電磁式強震計、試験運用開始。
 1989(平成 1). 6. 1 87型電磁式強震計による一般通報観測、正式運用開始。
 1989(平成 1). 10. 1 87型電磁式強震計による調査観測、正式運用開始。
 1992(平成 4). 3. 31 50型強震計、運用中止。
 1993(平成 5). 4. 1 90型計測震度計による震度観測開始
 1994(平成 6). 11. 1 59B型直視式電磁地震計、76型磁気テープ記録式電磁地震計、運用中止。
 1996(平成 8). 3. 22 95型計測震度計(90型改良)による震度観測開始
 1996(平成 8). 3. 28 88型小地震観測装置、撤去。
 1996(平成 8). 4. 1 体感による震度観測中止。
 1996(平成 8). 12. 17 87型電磁式強震計、運用中止。

地震計観測位置

新町大手通り時代

N 40° 50' E 140° 45' H 不明

大森式地動計

1904(明治37). 10. 1 - 1911(明治44). 5. 5

1911(明治44). 5. 5 - 1912(大正 1). 11. 19

今村式简单微動計

1912(大正 1). 11. 19 - 1927(昭和 2).

大森式简单微動計

1926(大正15). - 1928(昭和 3). 1. 1

松森字佃(国営庁舎)時代

N 40° 49.2' E 140° 46.9' H 不明

大森式简单微動計

1928(昭和 3). 1. 1 - 1939(昭和14). 8. 1

今村式2倍強震計

1928(昭和 3). - 1950(昭和25). 11. 1

ウィーヘルト式地震計

1956(昭和31). 1. 24 - 1971(昭和46). 6. 1

50型強震計

1956(昭和31). 1. 24 - 1992(平成 4). 3. 31 (H 5. m)

67型磁気テープ記録式電磁地震計

1971(昭和46). 2. 12 - 1990(平成 2). 4. 21 (H 5. m)

59B型直視式電磁地震計

1975(昭和50). 1. 10 - 1994(平成 6). 10. 31 (H 5. m)

87型電磁式強震計

1988(昭和63). 7. 30 - 1996(平成 8). 12. 17 (H 5. m)

油川町字大浜(国営庁舎)

N 40° 51' E 140° 42' H 不明

ウィーヘルト式地震計

1939(昭和14). 8. 1 - 1955(昭和30). 12. 23

50型強震計

1950(昭和25).11.1 - 1955(昭和30).12.23

新庁舎時代

N 40° 49.2' E 140° 46.4' H 3. m

90型計測震度計

1993(平成5).4.1 -

隔測地震計

76型磁気テープ記録式電磁地震計(青森2)

1978(昭和53).6.8 - 1994(平成6).11.1

88型小地震観測装置(青森3)

1990(平成2).4. - 1996(平成8).3.28

【マイクロフィルム化されている一番古い地震記象紙】

1939年(昭和14年)7月27日のウィーヘルト式地震計(水平2成分)

津波観測業務履歴

1996(平成8).4.1 津波観測計・巨大津波観測計、運用開始。

津波観測位置

巨大津波観測計

1996(平成8).4.1 -

むつ市大字関根字北関根

N 41° 21.7' E 141° 14.7'

八戸:Hachinohe

JMAコード:HACHIN、USGSコード:HAC

官署来歴

1936(昭和11).7.15 中央気象台八戸測候所創立。(文部省所管)

1939(昭和14).11.1 八戸測候所となる。

震度観測地点

1936(昭和11).7.15 八戸市大字湊町字館鼻67番地

N 40° 31.5' E 141° 31.5' H 27.4m(露)

地震観測履歴

1936(昭和11).7.1 ウィーヘルト式地震計(アレス、3成分)、中央気象台型強震計、観測開始。

1937(昭和12). 体感による地震観測開始。

1951(昭和26).8.28 51型強震計(すず書き。気象測器製作所製)設置。

中央気象台型強震計、観測中止。

1951(昭和26).9.5 51型感震器設置。

1961(昭和36).5.1 59型くん煙装置(ウィーヘルト式・強震計の記象紙用)設置。

1962(昭和37).8.16 51型強震計に振止装置取り付け。

1962(昭和37).9.1 51型強震計に刻時装置取り付け。

1962(昭和37).12.23 地震計台工事により、ウィーヘルト式地震計・強震計を工作室に移設のため、時分までの暫定観測。

1963(昭和38).1.31 地震計台工事完了により、強震計の正規観測再開。

1963(昭和38).2.11 ウィーヘルト式地震計、観測中止。

1962(昭和37).年度 51型強震計に振止装置及び刻時装置を取り付け。

1963(昭和38).2.15 59型光学式(500倍)及び直視式(すず書き)電磁地震計設置、試験運用開始。59型電磁地震計の感震器を使用のため、51型感震器は以降殆ど使用しない。

- 1963(昭和38). 4. 1 59型光学式及び直視式電磁地震計、正式運用開始。
- 1963(昭和38). 11. 2 60型くん煙装置設置。
- 1965(昭和40). 12. 6 59型電磁地震計・51型強震計、新地震計室に移設。
- 1965(昭和40). 12. 7 地震計室改築し、地震計による観測開始。(51型強震計は13日)
- 1969(昭和44). 12. 10 51型強震計、すす書きをインク書きに改造。
- 1970(昭和45). 11. 21 59型直視式電磁地震計、すす書きをインク書きに改造のため観測休止。
- 1970(昭和45). 12. 3 59型直視式電磁地震計改造完了、観測再開。
- 1971(昭和46). 2. 15 67型磁気テープ式電磁地震計(埋設型:15.1m)設置、試験運用開始。
- 1971(昭和46). 6. 1 67型磁気テープ記録式電磁地震計、正式運用開始。59型光学式電磁地震計、観測中止。
- 1972(昭和47). 5. 30 59型直視式電磁地震計にゴミ取り装置を取付け。
- 1973(昭和48). 8. 30 51型強震計起動器、ゼンマイ式を電動式に改造。
- 1974(昭和49). 3. 28 59型直視式電磁地震計増幅器をトランジスター化。
- 1977(昭和52). 2. 21 新現業室に67型ビジュグラフ移設。
- 1981(昭和56). 3. 26 59C型直視式電磁地震計設置。59型直視式電磁地震計を更新。
- 1981(昭和56). 年度 仙台 L-ADESS整備。地震資料伝送装置及び強震計変換器設置。
- 1982(昭和57). 10. 1 67型及び強震計(水平成分)の地震波形を青森を中継し電話回線により仙台へ伝送、運用開始。
- 1988(昭和63). 67型磁気テープ記録式電磁地震計用時刻符号化装置を更新。
- 1988(昭和63). 8. 5 87型電磁式強震計、試験運用開始。
- 1989(平成 1). 6. 1 87型電磁式強震計による一般通報観測、正式運用開始。
- 1989(平成 1). 10. 1 87型電磁式強震計による調査観測、正式運用開始。
- 1991(平成 3). 3. 31 51型強震計、運用中止。
- 1991(平成 3). 5. 18 88型小地震観測装置、運用開始。67型磁気テープ記録式電磁地震計、運用中止。
- 1993(平成 5). 4. 1 90型計測震度計、正式運用開始。
- 1993(平成 5). 5. 59C型直視式電磁地震計、87型電磁式強震計、88型小地震観測中継装置、90型計測震度計、仮庁舎に移設。
- 1994(平成 6). 6. 59C型直視式電磁地震計、87型電磁式強震計、88型小地震観測中継装置、90型計測震度計、新庁舎に移設。
- 1994(平成 6). 11. 1 59C型直視式電磁地震計、運用中止。
- 1996(平成 8). 3. 31 88型小地震観測装置、運用中止。
- 1996(平成 8). 4. 1 体感による震度観測中止。95型計測震度計運用開始、90型計測震度計運用中止。
- 1996(平成 8). 6. 5 87型電磁式強震計、運用中止。

地震計観測位置

	N 40° 31.5'	E 141° 31.5'	H 28. m
ウィーヘルト式地震計			
1936(昭和11). 7. 1 - 1963(昭和38). 2. 11			(H 不明)
中央気象台型強震計			
1936(昭和11). 7. 1 - 1951(昭和26). 8. 28			(H 不明)
51型強震計			
1951(昭和26). 8. 28 - 1965(昭和40). 12. 6			
1965(昭和40). 12. 7 - 1991(平成 3). 3. 31			
59型光学式電磁地震計			
1963(昭和38). 2. 15 - 1965(昭和40). 12. 6			
1965(昭和40). 12. 7 - 1971(昭和46). 6. 1			
59型直視式電磁地震計			
1963(昭和38). 2. 15 - 1965(昭和40). 12. 6			
1965(昭和40). 12. 7 - 1981(昭和56). 3. 26			
67型磁気テープ式電磁地震計(埋設深度:16m)			
1971(昭和46). 2. 15 - 1991(平成 3). 5. 18			(H 12. m)
59C型直視式電磁地震計			
1981(昭和56). 3. 26 - 1994(平成 6). 11. 1			
87型電磁式強震計			

1988(昭和63). 8. 5 - 1996(平成 8). 6. 5
90型計測震度計
1993(平成 5). 4. 1 -

隔測地震計

88型小地震観測装置(八戸2)
1990(平成 2). 4. - 1996(平成 8). 3. 31

【マイクロフィルム化されている一番古い地震記象紙】

1936年(昭和11年)10月19日のウィーヘルト式地震計(3成分)

津波観測業務履歴(湊:MINATO)

1936(昭和11). 8. 検潮観測開始。
1961(昭和36). 年度 遠隔自記検潮装置(無線隔測)設置。
1962(昭和37). 1. 12 ホノルル津波警報組織の検潮観測通報地点となる。
1962(昭和37). 7. 1 遠隔自記検潮装置による観測開始。
1968(昭和43). 10. 30 津波観測実施官署となる(観測地点:湊)。
1968(昭和43). 11. 25 津波観測実施官署としての業務開始。
1970(昭和45). 8. 1 八戸検潮所移設。フース型検潮儀に遠隔自記装置を併設し、運用開始。
1983(昭和58). 3. 1 検潮所北東へ約50m移設し、運用開始。
1996(平成 8). 4. 1 巨大津波観測計、運用開始。

津波観測位置

八戸検潮所

1936(昭和11). 8. - 1970(昭和45). 8. 1
八戸市新湊
N 40° 31' 30" E 141° 31' 30"
1970(昭和45). 8. 1 - 1983(昭和58). 3. 1
八戸市新湊3丁目地内
N 40° 31' 42" E 141° 31' 47"
1983(昭和58). 3. 1 -
八戸市新湊3丁目63番地
N 40° 31' 44" E 141° 31' 53"

巨大津波観測計

1996(平成 8). 4. 1 -
八戸市湊町下条53
N 40° 31' 34" E 141° 31' 29"

陸奥:Mutsu(田名部:Tanabu)

JMAコード: MUTSU

官署来歴

1934(昭和 9). 11. 21 青森測候所田名部支所創立。(青森県所管)
1938(昭和13). 7. 15 国営移管、中央气象台田名部臨時出張所。(文部省所管)
1946(昭和21). 3. 13 大湊測候所田名部分室となる。
1947(昭和22). 4. 30 田名部測候所となる。
1970(昭和45). 4. 17 むつ測候所となる。
1998(平成10). 2. 28 測候所廃止。

震度観測地点

1935(昭和10). 1. 1 下北郡田名部町大字田名部内田42-403
N 41° 17' E 141° 13' H 3.1m

- 1959(昭和34). 9. 1 大湊田名部市大字田名部字内田42(住居表示変更)
- 1960(昭和35). 8. 1 むつ市大字田名部字内田42(住居表示変更)
- 1968(昭和43). 5. 1 むつ市金曲1丁目8番3号(住居表示変更)

地震観測履歴

- 1935(昭和10). 1. 1 中央気象台型简单微動計(教育品製造kk製)観測開始。
- 1941(昭和16). 9. 1 地震計による地震観測中止。
- 1946(昭和21). 11. 1 目視、体感又は聴音による観測再開。
- 1981(昭和56). 4. 1 目視、体感又は聴音による地震観測の時間は、夜間閉鎖により、08時00分-19時00分の間に変更。
- 1992(平成 4). 4. 1 90型計測震度計による震度観測開始。
- 1996(平成 8). 4. 1 体感による震度観測中止。

地震計観測位置

N 41° 17' E 141° 13' H 3. m

中央気象台型简单微動計

- 1935(昭和10). 1. 1 - 1941(昭和16). 9. 1

90型計測震度計

- 1992(平成 4). 4. 1 -

深浦:Fukaura

JMAコード:FUKAUR

官署来歴

- 1939(昭和14). 1. 11 中央気象台深浦観測所創立。(文部省所管)
- 1947(昭和22). 4. 30 仙台管区気象台深浦観測所となる。
- 1949(昭和24). 6. 1 深浦観測所となる。
- 1950(昭和25). 6. 1 深浦測候所となる。

震度観測地点

- 1939(昭和14). 1. 11 西津軽郡深浦町大字深浦字岡町 210の 3
N 40° 38.6' E 139° 56.2' H 67.7m(露)
- 1974(昭和49). 10. 1 N 40° 38.6' E 139° 56.2' H 66.1m(露)
(気象標石新設)

地震観測履歴

- 1940(昭和15). 1. 1 体感による地震観測開始。
- 1993(平成 5). 4. 1 90型計測震度計による震度観測開始。
- 1996(平成 8). 4. 1 体感による震度観測中止。

地震計観測位置

N 40° 39' E 139° 56' H 66. m

90型計測震度計

- 1993(平成 5). 4. 1 -

津波観測業務履歴(深浦:FUKAURA)

- 1896(明治29). 7. 1 陸地測量部により建設。
- 1924(大正13). 12. 15 陸軍省より引継。
- 1933(昭和 8). 7. 22 新規登載。
- 1943(昭和18). 10. 20 神戸気象台より所属換え。
- 1949(昭和24). 4. 1 青森測候所から移管。
- 1972(昭和47). 4. 1 岩崎検潮所を廃止、深浦検潮所(津波監視用)を新設し、運用開始。
- 1981(昭和56). 3. 13 遠隔自記検潮装置設置。

- 1981(昭和56). 5. 1 遠隔自記検潮装置、運用開始。仙台へ隔測。
 1982(昭和57). 11. 4 津波観測の実施官署となる(観測地点: 深浦)。
 1982(昭和57). 11. 15 津波観測の実施官署としての業務開始。
 1995(平成 7). 4. 13 津波観測の実施官署としての業務中止。
 1996(平成 8). 4. 1 巨大津波観測計、運用開始。

津波観測位置

岩崎検潮所

- 1896(明治29). 7. 1 - 1972(昭和47). 4. 1
 西津軽郡岩崎村玉坂
 N 40° 34.9' E 139° 54.9'

深浦検潮所

- 1972(昭和47). 4. 1 -
 西津軽郡深浦町大字深浦字苗代沢84の1
 N 40° 38' 36" E 139° 55' 54"

巨大津波観測計

- 1996(平成 8). 4. 1 -
 西津軽郡深浦町大字深浦字苗代沢84の1
 N 40° 38' 36" E 139° 55' 54"

青森2:Aomori2(相馬:Souma)

JMAコード: AOMOR2、USGSコード: AOMJ

観測点来歴

- 1978(昭和53). 6. 8 無人観測点開設。
 青森県中津軽郡相馬村大字相馬字八反田25番地
 N 40° 33.6' E 140° 22.4' H 90. m

地震観測履歴

- 1978(昭和53). 6. 8 76型磁気テープ記録式電磁地震計、試験運用開始。青森地方気象台で隔測観測。
 1978(昭和53). 8. 15 76型磁気テープ記録式電磁地震計(5000倍。埋設: 82m。)正式運用開始。
 1981(昭和56). 年度 76型磁気テープ記録式電磁地震計の送信局側の電源ラインに 耐雷トランス設置。
 1982(昭和57). 年度 76型磁気テープ記録式電磁地震計の送信局電々公社側にも耐雷トランスを設置。
 1986(昭和61). 8. 12 上下動変換器(周期1秒)が不良。業者により、周期0.22秒の変換器に変更し、倍率を約5000倍に調整。
 1994(平成 6). 11. 1 76型磁気テープ記録式電磁地震計、運用中止。

地震計観測位置

- N 40° 33.6' E 140° 22.4' H 8. m
 76型磁気テープ記録式電磁地震計 埋設型 観測井の深さ82m
 1978(昭和53). 6. 8 - 1994(平成 6). 11. 1

青森3:Aomori3

JMAコード: AOMOR3、USGSコード: AOM3

観測点来歴

- 1990(平成 2). 4. 無人観測点開設。
 青森市月見野
 N 40° 46.6' E 140° 49.0' H 150 m

地震観測履歴

- 1990(平成 2). 4. 88型小地震観測装置、観測開始。

1996(平成 8). 3. 28 88型小地震観測装置、撤去。

地震計観測位置

N 40° 46.6' E 140° 49.0' H 150. m

88型小地震観測装置

1990(平成 2). 4. - 1996(平成 8). 3. 28

八戸2:Hachinohe2

JMAコード: HACHI2、USGSコード: HACJ

観測点来歴

1991(平成 3). 5. 18 無人観測点開設。

三戸郡階上町大字晴山沢晴山沢浄水場内

N 40° 24.9' E 141° 32.7' H 不明

地震観測履歴

1991(平成 3). 5. 18 88型小地震観測装置、運用開始。

1996(平成 8). 3. 31 88型小地震観測装置、運用中止。

1996(平成 8). 4. 4 津波地震早期検知網型地震計(青森南郷)に更新のため観測中止。

地震計観測位置

N 40° 24.9' E 141° 32.7' H 240. m

88型小地震観測装置

1991(平成 3). 5. 18 - 1996(平成 8). 3. 31

秋田県

秋田:Akita

JMAコード: AKITA、USGSコード: AKI、移転後はAKI1

官署来歴

1882(明治15). 10. 1 秋田測候所創立。(内務省地理局所管)

1887(明治20). 4. 1 地方移管、秋田県立秋田測候所となる。

1938(昭和13). 10. 1 国営移管、中央气象台秋田測候所となる。(文部省所管)

1939(昭和14). 11. 1 秋田測候所となる。

1957(昭和32). 9. 1 秋田地方气象台となる。

震度観測地点

1882(明治15). 10. 1 南秋田郡秋田町4丁目 秋田電信局楼上
N 39° 42' E 140° 07' H 8.4m

1886(明治19). 4. 1 南秋田郡秋田町長野町(移転)
N 39° 42' E 140° 07' H 10.0m

1896(明治29). 12. 1 河辺郡牛嶋町大野中道字上段(移転)
N 39° 41.8' E 140° 06.5' H 5.0m

1926(大正15). 11. 1 南秋田郡寺内村大字八橋(移転)
N 39° 43.1' E 140° 06.5' H 9.1m

1941(昭和16). 4. 1 秋田市八橋字八橋 103(秋田市に合併)

1958(昭和33). 1. 17 秋田市八橋字八橋78番の4(土地交換のため合筆登記)

1959(昭和34). 6. 6 位置再測定
N 39° 43.1' E 140° 06.0' H 9.2m

1982(昭和57). 5. 1 秋田市八橋運動公園1番地6号(住居表示変更)

1989(平成 1). 10. 30 秋田市山王7丁目1番4号 秋田第二合同庁舎(移転)
N 39° 42.9' E 140° 06.2' H 6.3m

地震観測履歴

- 1892(明治25).10. 1 ミルン式地震計(グレーミルンユーイング地震計)、設置。
 1895(明治28). 1. 震災予防調査会において電信局との間に電話架設、正午の時報受信す。略号地震電報制定。(下記のような例)
- | 現象種類 | 発震時刻 | 被害模様 |
|------|------|------|
| △ | 〇〇〇 | × |
| 四 | ロウウ | モ |
- 1914(大正 3).頃 ミルン式地震計、観測中止。
 1914(大正 3).10. 1 今村式強震計、大森式簡単微動計設置。
 1926(大正15). . 大森式微動計(OS、教育品製造製、No163、制振なし?、固有周期4.0秒、倍率50倍)、今村式強震計(IL、教育品製造製、No147、制振なし?倍率2倍、固有周期9.0秒)、普通地震計(MS、倍率水平上下6倍)、大森式強震計(OL、横尾製、No146、電磁制振、水平動2倍 上下動3倍、固有周期水平動3.5秒、上下動4.0秒 摩擦値水平動0.003、上下動0.003、制振度水平動2、上下動3)、大森式簡単微動計(OP、中央气象台製、No13、倍率50倍、電磁制振、固有周期4.0秒、摩擦値南北動0.063、東西動0.070)、大森式地動計(OS、アレス製、No171、No172、電磁制振 倍率 20倍、固有周期20秒、摩擦値0.004、制振度5)、時計、Nardin No2097、無線報時
- 1926(大正15).11. 1 ウィーヘルト式地震計(3成分)、大森式地動計(アレス) 2台、大森式強震計設置(験震時報, 2, 215.)。今村式強震計、観測中止。
 1943(昭和18). 7. 1 大森式簡単微動計、観測中止。
 1946(昭和21). 大森式地動計、観測中止。
 1951(昭和26). 6. 15 大森式強震計、観測中止。
 1951(昭和26). 7. 15 51型強震計(すす書き。気象測器製作所製)観測開始。
 1951(昭和26). 8. 17 51型感震器設置。
 1956(昭和31). 4. 21 大森式地動計、観測再開。
 1957(昭和32). 4. 24 大森式地動計、観測中止。
 1957(昭和32). 5. 22 ラジオによる時報検出装置、使用開始。
 1957(昭和32). 7. I・G・Y 地震観測開始。ウィーヘルト式地震計で、脈動補助観測。
 1959(昭和34). 1. 1 I・G・Y 地震観測終了。
 1960(昭和35). 9. 22 59型くん煙装置(ウィーヘルト式・強震計の記象紙用)設置。
 1962(昭和37).年度 51型強震計に振止め装置及び刻時装置を取付け。
 1963(昭和38).年度 60型くん煙装置設置。
 1964(昭和39). 1. 17 ウィーヘルト式地震計、観測中止。
 1964(昭和39). 2. 1 59型光学式(500倍)及び直視式(すす書き)電磁地震計設置、試験観測開始。
 1964(昭和39). 3. 1 59型光学式及び直視式電磁地震計、正式観測開始。
 1965(昭和40).12. 15 新地震計室移設のため、地震計による観測休止。
 1965(昭和40).12. 17 新地震計室での59型地震計による観測再開。
 1965(昭和40).12. 20 新地震計室での51型強震計による観測再開。
 1967(昭和42).年度 51型強震計、すす書きをインク書きに改造。
 1970(昭和45). 3. 9 67型磁気テープ記録式電磁地震計(速報装置付、埋設型:30.0m)設置。67型の地震波形を電話回線により仙台へ伝送。
 1970(昭和45). 3. 13 67型磁気テープ記録式電磁地震計、試験観測開始。
 1970(昭和45). 6. 1 67型磁気テープ記録式電磁地震計、正式観測開始。59型光学式 電磁地震計、観測中止。
 1972(昭和47).11. 8 51型強震計起動器、ゼンマイ式を電動式に改造。
 1972(昭和47).12. 13 59B型直視式電磁地震計、インク書きへの改造のため観測休止。
 1973(昭和48). 1. 18 59B型直視式電磁地震計改造完了し、観測再開。
 1972(昭和47).年度 59B型直視式電磁地震計にゴミ取り装置を取付け。59B型直視式電磁地震計増幅器をトランジスター化。
 1977(昭和52). 9. 24 67型磁気テープ記録式電磁地震計の速報装置を白河に移設のため取外す。これにより、仙台への波形伝送を中止。
 1979(昭和54). 4. 28 2HZ発振器配分。
 1981(昭和56). 3. 21 59C型直視式電磁地震計、観測開始。59型直視式電磁地震計を更新。
 1981(昭和56).年度 仙台 L-ADESS整備。地震資料伝送装置及び強震計変換器設置。67型及び強震計(水

- 平成分)の地震波形を電話回線により仙台へ伝送。
 1988(昭和63). 67型磁気テープ記録式電磁地震計用時刻符号化装置を更新。
 1988(昭和63). 8. 5 87型電磁式強震計、試験運用開始。
 1989(平成 1). 6. 1 87型電磁式強震計による一般通報観測、正式運用開始。
 1989(平成 1). 10. 1 87型電磁式強震計による調査観測、正式運用開始。
 1989(平成 1). 11. 2 51型強震計、87型電磁式強震計、59C型直視式電磁地震計、67型磁気テープ記録式電磁地震計、新庁舎に移設。
 1993(平成 5). 4. 1 90型計測震度計震度観測開始。
 1996(平成 8). 4. 1 体感による震度観測中止。

地震計観測位置

長野町時代

N 39° 42' E 140° 07' H 10. m

ミルン式地震計

1892(明治25). 10. 1 - 1896(明治29). 12. 1

牛島町時代

N 39° 41.8' E 140° 06.5' H 5. m

ミルン式地震計

1896(明治29). 12. 1 - 1914(大正 3). 頃

今村式強震計

1914(大正 3). 10. 1 - 1926(大正15). 11. 1

大森式簡単微動計

1914(大正 3). 10. 1 - 1926(大正15). 11. 1

八橋時代

N 39° 43.1' E 140° 06.5' H 10. m

大森式簡単微動計

1926(大正15). 11. 1 - 1943(昭和18). 7. 1

ウィーヘルト式地震計

1926(大正15). 11. 1 - 1964(昭和39). 1. 17

大森式地動計

1926(大正15). 11. 1 - 1946(昭和21).

1956(昭和31). 4. 12 - 1957(昭和32). 4. 24

大森式強震計

(官署の原簿には中央気象台型強震計と記入あるが大森式が正しい)

1926(大正15). 11. 1 - 1951(昭和26). 6. 15

51型強震計

1951(昭和26). 7. 15 - 1989(平成 1). 11. 2

59型光学式電磁地震計

1964(昭和39). 1. 26 - 1970(昭和45). 6. 1

59型直視式電磁地震計

1964(昭和39). 1. 26 - 1981(昭和56). 3. 21

67型磁気テープ式電磁地震計(埋設深度: 31m)

1970(昭和45). 4. - 1989(平成 1). 11. 2

59C型直視式電磁地震計

1981(昭和56). 3. 21 - 1989(平成 1). 11. 2

87型電磁式強震計

1988(昭和63). 8. 5 - 1989(平成 1). 11. 2

山王合同庁舎

N 39° 42.9' E 140° 06.2' H 2. m

51型強震計

1989(平成 1).11. 2 - 1992(平成 4). 4. 1
67型磁気テープ式電磁地震計
1989(平成 1).11. 2 - 1990(平成 2). 4. 25
59C型直視式電磁地震計
1989(平成 1).11. 2 - 1994(平成 6).11. 1
87型電磁式強震計
1989(平成 1).11. 2 - 1997(平成 9). 3. 31
90型計測震度計
1993(平成 5). 4. 1 -

隔測地震計

88型小地震観測装置(秋田2)
1990(平成 2). 4. 25 - 1996(平成 8). 4. 4

【マイクロフィルム化されている一番古い地震記象紙】
1896年(明治29年)8月29日のミルン式地震計?(3成分)

津波観測業務履歴(秋田港:AKITA)

1985(昭和60). 1. 21 第一港湾建設局秋田港工事事務所の検潮儀記録を秋田地方気象台に分岐し、これを常時監視することになった。津波現象が観測された場合には、国内気象通報式 JM205を用いて通報することとなった。

津波観測位置

秋田港検潮所

1985(昭和60). 1. 21 -

秋田市土崎港西 1-1-49
N 39° 45' E 140° 04'

秋田2:Akita2

JMAコード: AKITA2、USGSコード: AKIJ

観測位置

1990(平成 2). 4. 25 秋田市手形山字大松沢99-7
秋田市水道局仁井田浄水場手形配水場
N 39° 44.1' E 140° 08.5' H 65 m

地震観測履歴

1990(平成 2). 4. 25 88型小地震観測装置、運用開始。
1996(平成 8). 4. 4 津波地震早期検知網型地震計(秋田雄和)に更新のため観測中止。

地震計観測位置

N 39° 44.1' E 140° 44.1' H 65 m

88型小地震観測装置

1990(平成 2). 4. 25 - 1996(平成 8). 4. 4

本荘:Honjo

JMAコード: HONJO、USGSコード: HJH

観測点来歴

1975(昭和50). 4. 1 東北大学の本荘観測所を借用開設
本荘市大築西の角4の内(東北大学本荘観測所に設置)
N 39° 20.3' E 140° 10.4' H 140 m

地震観測履歴

- 1975(昭和50). 4. 1 北部広域地震観測システム(札幌・仙台系。根室・寿都・本荘)の観測点として設置試験運用。
1975(昭和50). 4. 23 広域地震観測装置、正式運用開始。
1990(平成 2). 3. 16 LOGAMPを取り外す。
1994(平成 6). 9. 21 津波地震早期地震検知網開始に伴い運用中止。

地震計観測位置

N 39° 20.3' E 140° 10.4' H 122 m

高感度短周期(1秒)速度型地震計(横穴式 奥行 38m)

1975(昭和50). 4. 23 - 1994(平成 6). 9. 21

岩手県

盛岡:Morioka

JMAコード:MORIOK、USGSコード:MRK

官署来歴

- 1922(大正11). 5. 1 岩手県立盛岡測候所創立。
1936(昭和11). 10. 1 国営移管、中央气象台盛岡支台となる。(文部省所管)
1939(昭和14). 11. 1 盛岡測候所となる。
1943(昭和18). 11. 1 運輸通信省所管となる。

震度観測地点

- 1923(大正12). 9. 1 岩手郡浅岸村大字新庄第4地割字山王
N 39° 41.7' E 141° 10.1' H 154.5m
1941(昭和16). 5. 16 盛岡市大字新庄字山王53番地(住居表示変更)
1971(昭和46). 2. 1 盛岡市山王町7番60号(住居表示変更)

地震観測履歴

- 1923(大正12). 7. 1 地震観測に必要な諸機器の据付、予備観測開始。
1923(大正12). 9. 1 体感による地震観測開始。
(地震観測正式開始と気象官署履歴簿に記載あり)
1923(大正12). 10. 1 大森式微動計(2成分)、大森式強震計設置、地震観測業務開始。
(設置当時の地震計室の写真、絵葉書としてあり)
1924(大正13). 4. 1 ウィーヘルト式地震計(上下動)設置、観測開始。
1924(大正13). 11. 1 ウィーヘルト式地震計(水平動)設置、観測開始。
1925(大正14). 1. 1 ウィーヘルト式地震計による地震電報発信開始。
1926(大正15). . 大森式強震計(OL、横尾製、No120、電磁制振、倍率水平動1倍、上下動2.5倍、摩擦値水平動0.0002、上下動0.0004、固有周期水平動5.0秒、上下動5.8秒、制振度南北動2.4、東西動3.4)
大森式微動計(OT、横尾製、No119、No118、電磁制振、倍率南北動80倍、東西動85倍、固有周期20秒、摩擦値、南北動0.0009、東西動0.003、制振度南北動2.6、東西動2.8)
ウィーヘルト地震計(Spindler & Hoyer製、No248、No236、倍率水平動80倍、上下動60倍、固有周期水平動5.5秒、上下動6.0秒、摩擦値水平動0.004、上下動0.0013、制振度水平動2.4、上下動3.4)
時計、Dent No59174、Heath No2230-2262、Algemeine No67540-4562、無線報時
1930(昭和 5). 1. 1 盛岡所管区内観測所地震観測結果を中央气象台に報告開始。
1939(昭和14). 3. 1 大森式微動計、観測中止。
1945(昭和20). 8. 1 大森式強震計のみ観測。
1946(昭和21). 1. 1 ウィーヘルト式地震計、観測再開。
1951(昭和26). 6. 1 51型感震器、使用開始。
1952(昭和27). 7. 19 52型強震計(すす書き。気象測器製作所製)設置。大森式強震計、観測中止。
1957(昭和32). 5. 21 地震計用ラジオ時報受信装置の取付使用。
1962(昭和37). 年度 52型強震計に振止め装置及び刻時装置を取付け。
1963(昭和38). 年度 60型くん煙装置設置。
1964(昭和39). 1. 13 ウィーヘルト式地震計解体、観測中止。
1964(昭和39). 1. 27 59型光学式(1000倍)及び直視式(すす書き)電磁地震計設置。

- 1964(昭和39). 2. 1 59型光学式及び直視式電磁地震計、正式運用開始。
- 1967(昭和42). 12. 27 52型強震計、すず書きをインク書きに改造。
- 1970(昭和45). 3. 10 67型磁気テープ記録式電磁地震計(速報装置付、地上型)設置。
- 1970(昭和45). 3. 31 59型光学式電磁地震計、観測中止。
- 1970(昭和45). 6. 1 67型磁気テープ記録式電磁地震計、正式観測開始。
- 1970(昭和45). 10. 25 湯田気象通報所に自動地震計数装置を設置、09時より臨時観測開始。
- 1970(昭和45). 12. 2 67型磁気テープ記録式電磁地震計変換器、地上型から埋設型(31.3m)
- 1971(昭和45). 2. 28 湯田気象通報所の自動地震計数装置による観測中止。
- 1971(昭和46). 3. 30 59型直視式電磁地震計、すず書きをインク書きに改造。
- 1972(昭和47). 年度 59型直視式電磁地震計にゴミ取り装置を取付け。
- 1972(昭和47). 10. 14 52型強震計にゴミとり装置を取付け。
- 1972(昭和47). 12. 11 52型強震計起動器、ゼンマイ式を電動式に改造。
- 1975(昭和50). 10. 30 59型直視式電磁地震計、低周波増幅器を真空管からトランジスターに変更。(1974年5月21日と1976年5月28日に同様の記述があったが気象官署履歴を採用)
- 1975(昭和50). 10. 30 59型直視式電磁地震計、ガルバを改造完了。
- 1981(昭和56). 3. 31 59C型直視式電磁地震計、正式運用開始。59型直視式電磁地震計、観測中止。
- 1981(昭和56). 年度 仙台 L-ADESS整備。地震資料伝送装置及び強震計変換器設置。
67型及び強震計(水平成分)の地震波形を電話回線により仙台へ伝送(宮古の67型と強震計の波形を中継)。
- 1988(昭和63). 年度 67型磁気テープ記録式電磁地震計用時刻符号化装置を更新。
- 1988(昭和63). 4. 1 87型電磁式強震計、試験運用開始。
- 1989(平成 1). 6. 1 87型電磁式強震計による一般通報観測、正式運用開始。
- 1989(平成 1). 10. 1 87型電磁式強震計による調査観測、正式運用開始。
- 1992(平成 4). 2. 20 88型小地震観測装置(隔測型)、運用開始。
- 1992(平成 4). 3. 20 88型小地震観測装置(隔測型)、本運用開始。67型磁気テープ記録式電磁地震計、地震資料伝送装置、運用中止。(なお、地震資料伝送装置は1993年3月末撤去)
- 1993(平成 5). 3. 1 90型計測震度計試験運用開始。
- 1993(平成 5). 4. 1 90型計測震度計による震度観測開始。
- 1994(平成 6). 4. 1 地震津波早期検知網の全国展開、運用開始。
- 1994(平成 6). 11. 1 52型強震計、運用中止。59C型直視式地震計による験測業務終了。
- 1995(平成 7). 2. 28 59C型直視式電磁地震計、運用中止。
(本庁指示による調査観測、地震記象紙は本庁に送付)
- 1996(平成 8). 4. 1 体感による震度観測中止。
- 1997(平成 9). 3. 31 87型電磁式強震計、運用中止。
- 1997(平成 9). 9. 3 仮庁舎へ移転(計測震度計、88型小地震観測装置中継局、仮庁舎での運用開始)。
- 1998(平成10). 2. 28 88型小地震観測装置運用停止。
- 1999(平成11). 10. 20 新庁舎へ移転(地震計の高さ H 154.2m)

地震計観測位置

- 1923(大正12). 7. 1 - 1997(平成 9). 9. 2
N 39° 41.7' E 141° 10.1' H 152.5m
- 1997(平成 9). 9. 3 - 1999(平成 11). 10. 20
H 152.9m
- 1999(平成11). 10. 20 -
N 39° 41.7' E 141° 10.1' H 154.2m
(いずれも地震計の高さ)

大森式微動計

- 1923(大正12). 10. 1 - 1939(昭和14). 3. 1

大森式強震計

- 1923(大正12). 10. 1 - 1952(昭和27). 7. 19

ウィーヘルト式地震計

- 1924(大正13). 4. 1 - 1945(昭和20). 8. 1以前
- 1946(昭和21). 1. 1 - 1964(昭和39). 1. 12

52型強震計

- 1952(昭和27). 7. 19 - 1994(平成 6). 11. 1

59型光学式電磁地震計

- 1964(昭和39). 1. 27 - 1970(昭和45). 3. 31

59型直視式電磁地震計

- 1964(昭和39). 1. 27 - 1981(昭和56). 3. 31

67型磁気テープ記録式電磁地震計(埋設深度:127.5m)
1970(昭和45). 3.10 - 1992(平成4). 3.20 (H 125. m)

59C型直視式電磁地震計
1981(昭和56). 3.31 - 1995(平成7). 2.28

87型電磁式強震計
1988(昭和63). 8.5 - 1997(平成9). 3.31
N 39° 41.8' E 141° 10.0'

90型計測震度計
1993(平成5). 4.1 - (H 154. m)

隔測地震計

88型小地震観測装置(盛岡2)
1992(平成4). 2.20 - 1996(平成10). 2.28

【マイクロフィルム化されている一番古い地震記象紙】

1924年(大正13年)3月20日のウィーヘルト式地震計(上下動成分)

盛岡2:Morioka2 JMAコード: MORIO2、USGSコード: MRK2

観測点来歴

1992(平成4). 2.20 無人観測点開設。
盛岡市砂子沢第10地割65番地 盛岡市立砂子沢小学校
N 39° 35.93' E 141° 19.43' H 380. m

地震観測装置履歴

1992(平成4). 2.20 88型小地震観測装置、運用開始。
1998(平成10). 2.28 88型小地震観測装置、廃止。

地震計観測位置

N 39° 35.93' E 141° 19.43' H 380. m
88型小地震観測装置
1992(平成4). 2.20 - 1996(平成10). 2.28

宮古:Miyako JMAコード: MIYAKO、USGSコード: MIY

官署来歴

1883(明治16). 3.1 宮古測候所創立(内務省地理局所管)。
1887(明治20). 4.1 地方移管、岩手県立宮古測候所となる(岩手県所管)。
1935(昭和10). 6.15 中央气象台附属宮古測候所新設(文部省所管)。
1935(昭和10). 7.31 県立宮古測候所廃止。
1936(昭和11). 7.15 中央气象台宮古測候所となる。
1939(昭和14). 11.1 宮古測候所となる。

震度観測地点

1883(明治16). 3.1 東閉伊郡宮古村字鏡岩 旧砲台場
N 39° 38' E 141° 59' H 29.0m
1888(明治21). 4.1 東閉伊郡宮古村宮古第14地割字沢田32番の1
(住居表示変更)
1889(明治22). 4.1 東閉伊郡宮古町宮古第14地割字沢田32番の1(町制施行)
1897(明治30). 4.1 下閉伊郡宮古町宮古第14地割字沢田32(郡名変更)
1939(昭和14). 1.1 下閉伊郡宮古町鏡ヶ崎第2地割下町 292番地の8(移転)
N 39° 38.7' E 141° 58.1' H 41.6m
1941(昭和16). 2.11 宮古市鏡ヶ崎第2地割下町 292番地の8(市制施行)
1965(昭和40). 7.1 宮古市鏡ヶ崎下町 2番33号(住居表示変更)
1990(平成2). 10.18 新庁舎完成に伴う機器移設(霜場高は変更なし)

地震観測履歴

1883(明治16). 3. 体感による地震観測開始。

- 1895(明治28). 10. 23 グレー・ミルン・ユーイング式普通地震計設置。
- 1898(明治31). 6. 07 大森式地動計設置。(震災予防調査會報告, 29, 43. に記事)
- 1903(明治36). 9. 28 簡單微動計(50倍)設置。
- 1926(大正15). 中央气象台型簡單微動計(CS、横尾製作所製、No100、制振なし、水平動2成分、周期7.0秒、倍率5倍、摩擦値0.004、CSとあるが簡單微動計、倍率は50倍の誤りと思われる)
普通地震計(MS、教育品製造製、No109、倍率水平動5倍、上下動10倍)、時計、De nt No59097、電信報時
- 1930(昭和 5). 中央气象台型簡單微動計、倍率50倍、固有周期7.0秒。
- 1933(昭和 8). 以前 強震計設置。
- 1937(昭和12). 4. 1 ウィーヘルト式地震計(アレス、3成分)設置。
- 1941(昭和16). 11. 23 中央气象台型強震計観測開始。
- 1944(昭和19). 簡單微動計(50倍)観測中止。
- 1951(昭和26). 7. 17 51型強震計(すず書き。気象測器製作所製)設置。中央气象台型強震計、観測中止。
- 1952(昭和27). 7. 20 51型感震器設置。
- 1960(昭和35). 59型くん煙装置(ウィーヘルト式・強震計の記象紙用)設置。
- 1962(昭和37). 年度 51型強震計に振止め装置及び刻時装置を取付け。
- 1965(昭和40). 12. 26 ウィーヘルト式地震計、観測休止。
- 1969(昭和44). 年度 51型強震計、すず書きをインク書きに改造。
- 1970(昭和45). 3. 4 67型磁気テープ記録式電磁地震計(埋設型: 12.6m)設置。
- 1970(昭和45). 4. 67型磁気テープ記録式電磁地震計、試験観測開始。
- 1970(昭和45). 6. 1 67型磁気テープ記録式電磁地震計、正式観測開始。ウィーヘルト式地震計水平動を並行観測。ウィーヘルト式地震計、上下動、観測中止。
- 1971(昭和46). 5. 14 ウィーヘルト式地震計上下動撤去。水平動、観測中止。
- 1971(昭和46). 12. 4 ウィーヘルト式地震計水平動撤去。
- 1971(昭和46). 12. 26 61型直視式電磁地震計、設置工事開始。
- 1971(昭和46). 12. 28 61型直視式電磁地震計、設置工事完了。
- 1972(昭和47). 1. 1 61型直視式電磁地震計、観測開始。
- 1973(昭和48). 1. 1 61型直視式電磁地震計、正式運用開始。
- 1973(昭和48). 8. 29 51型強震計起動器、ゼンマイ式を電動式に改造。
- 1981(昭和56). 年度 仙台 L-ADESS整備。地震資料伝送装置及び強震計変換器設置。67型及び強震計(水平成分)の地震波形を盛岡を中継し電話回線により仙台へ伝送。
- 1986(昭和61). 8. 11 67型地震計の倍率1000倍から3000倍に変更。
- 1990(平成 2). 2. 20 88型小地震観測装置、設置。
- 1990(平成 2). 4. 23 88型小地震観測装置、運用開始。
- 1990(平成 2). 4. 67型磁気テープ記録式電磁地震計、観測中止。
- 1992(平成 4). 3. 18 仙台から移設の59型直視式電磁地震計設置、観測開始。
61型直視式電磁地震計、観測中止(仙台へ移設)。
- 1993(平成 5). 2. 3 90型計測震度計、設置。
- 1993(平成 5). 4. 1 90型計測震度計による震度観測開始。
- 1993(平成 5). 4. 6 59型直視式電磁地震計の地震波形を、88型小地震観測伝送装置により、仙台へ伝送。
- 1994(平成 6). 11. 1 59型直視式電磁地震計、51型強震計、運用中止。
- 1996(平成 8). 4. 1 体感による震度観測中止。
- 1999(平成11). 3. 14 地震波形の伝送方式変更に伴い88型小地震観測装置モニタ部停止。

地震計観測位置

沢田時代

N 39° 38' E 141° 59' H 29.0m(露場高)

グレー・ミルン・ユーイング式普通地震計

1895(明治28). 10. 23 - 不明

大森式地動計

1902(明治31). 6. 3 - 不明

簡單微動計(名称不明)

1903(明治36). 9. 28 - 1939(昭和14). 1. 1

強震計(名称不明)

1933(昭和 8). 以前 - 1939(昭和14). 1. 1

ウィーヘルト式地震計

1937(昭和12). 4. 1 - 1939(昭和14). 1. 1

鉾ヶ崎時代

N 39° 38.7' E 141° 58.1' H 41.6m(露場高)

簡単微動計(名称不明)

1939(昭和14). 1. 1 - 1944(昭和19).

強震計(名称不明)

1939(昭和14). 1. 1 - 1941(昭和16). 11. 23

ウィーヘルト式地震計

1939(昭和14). 1. 1 - 1965(昭和40). 12. 26

中央気象台型強震計

1941(昭和16). 11. 23 - 1951(昭和26). 7. 17

51型強震計

1951(昭和26). 7. 17 - 1994(平成 6). 11. 1

67型磁気テープ記録式電磁地震計(埋設深度:12.6m)

1970(昭和45). 4. - 1990(平成 2). 4.

61型直視式電磁地震計

1972(昭和47). 1. 1 - 1992(平成 4). 3. 18

59型直視式電磁地震計

1992(平成 4). 3. 18 - 1994(平成 6). 11. 1

90型計測震度計

1993(平成 5). 4. 1 -

隔測地震計

88型小地震観測装置(宮古2)

1990(平成 2). 4. 23 -

地質、地盤、地形

地形 : 閉伊川北側に樹枝状に開析された丘陵地。

地質・地盤 : 中生代に貫入した花崗岩帯。

土層観測結果

第1層 表土層。非常にやわらかくしまりのない腐葉土層。

第2層 盛土層。砂質の全くしまりのない土層。真砂土を含む。層厚1.2m。

第3層 旧表土。やや固さ、しまりのあるシルト質土層。層厚0.2m。

第4層 ややしまりのあるシルト質土層。真砂土粒子を大量に含む。

第5層 地山及び地山遷移層。花崗岩面に至る土層。

(平成元年の鉾ヶ崎館山貝塚報告書より)

【マイクロフィルム化されている一番古い地震記象紙】

1896年(明治29年)6月15日のグレー・ミルン・ユーイング式普通地震計(3成分)

津波観測業務履歴(宮古:MIYAKO)

1939(昭和12). 4. 検潮観測開始。

1963(昭和38). 3. 遠隔自記検潮装置(無線隔測)設置。

1964(昭和39). 年度 検潮所改築。

1972(昭和47). 3. 6 無線ロボット検潮儀を更新し観測開始。仙台管区へ隔測化。

1968(昭和43). 10. 30 津波観測の実施官署となる(観測地点:宮古)。

1968(昭和43). 11. 25 津波観測実施官署としての業務開始。

1995(平成 7). 4. 13 津波観測業務中止。

1996(平成 8). 3. 29 津波観測計設置。

1996(平成 8). 4. 1 津波観測計、運用開始。

津波観測位置

宮古検潮所

1939(昭和12). 4. 宮古市日立浜町9番

N 39° 38' 27" E 141° 58' 44"

巨大津波観測計

1996(平成 8). 4. 1 宮古市日立浜町9番

N 39° 38' 27" E 141° 58' 44"

宮古2:Miyako2 JMAコード:MIYAK2、USGSコード:MIYJ
観測点来歴
1990(平成 2). 4. 23 88型隔測のため無人観測点開設。
宮古市大字長沢第8地割字酒池 一番地の3
N 39° 34.4' E 141° 49.3' H 200 m

地震観測履歴

1990(平成 2). 2. 20 88型小地震観測装置、設置。
1990(平成 2). 4. 23 88型小地震観測装置、運用開始。

地震計観測位置

N 39° 34.4' E 141° 49.3' H 200 m
88型小地震観測装置
1990(平成 2). 4. 23 -

地質、地盤、地形

地形 : 長沢川支流北目沢沿いの狭い平地部。周辺は緩やかな山地。
地質・地盤 : 基盤は砂岩・泥岩・頁岩等よりなる北部北上帯古生層。
ピット掘削結果 : 地表～深度0.7m 盛土、深度0.7m～1.3m 砂礫、
深度1.3m 岩盤(珪岩)。
(平成元年業者による地質調査報告の概略)

大船渡:Ohfunato JMAコード:OFUNAT、USGSコード:OFU

官署来歴

1963(昭和38). 4. 1 大船渡測候所創立。(運輸省所管)

震度観測地点

1963(昭和38). 4. 1 大船渡市大船渡町字赤沢39番地の8
N 39° 03.7' E 141° 43.1' H 36.7m
1979(昭和54). 10. 24 大船渡市大船渡町字赤沢17番地の3(住居表示変更)

地震観測履歴

1963(昭和38). 6. 14 59型直視式電磁地震計(すす書き)、52B型強震計(すす書き。勝島振動計器製作所製)、試験運用開始。
1963(昭和38). 8. 1 59型直視式電磁地震計及び52B型強震計、正式運用開始。
1966(昭和41). 10. 1 52B型強震計、すす書きをインク書きに改造。
1969(昭和44). 9. 24 59型地震計のCCP電力増幅器をトランジスター化。
1970(昭和45). 3. 3 67型磁気テープ式電磁地震計(速報装置付、地上型)設置。
1970(昭和45). 3. 12 67型磁気テープ記録式電磁地震計、試験観測開始。
1970(昭和45). 6. 1 67型磁気テープ記録式電磁地震計、正式観測開始。
1972(昭和47). 9. 18 52B型強震計にゴミ取り装置を取付け。
1973(昭和48). 1. 17 59型直視式電磁地震計インク書きへの改造のため測器工場へ送付。59型による観測休止。
1973(昭和48). 2. 28 59型直視式電磁地震計、すす書きをインク書きに改造完了し試験観測開始。
1973(昭和48). 3. 1 59型直視式電磁地震計、観測再開。
1976(昭和51). 11. 10 52B型強震計起動器、ゼンマイ式を電動式に改造。
1978(昭和53). 4. 21 76型磁気テープ記録式電磁地震計(5000倍。大船渡で隔測観測。感部は大船渡の西北西約4.7km)、試験観測開始。
1978(昭和53). 8. 15 76型磁気テープ記録式電磁地震計、正式観測開始。
1980(昭和55). 3. 19 59C型直視式電磁地震計、正式観測開始。59型直視式電磁地震計、観測中止。
1982(昭和57). 3. 1 仙台 L-ADESS整備。地震資料伝送装置及び強震計変換器設置。
67型及び強震計(水平成分)、大船渡2の76型の地震波形を電話回線により仙台へ伝送。
1982(昭和57). 10. 1 L-ADESSによる地震波形伝送業務、正式運用開始。
1988(昭和63). 5. 31 87型電磁式強震計、設置。
1988(昭和63). 8. 5 87型電磁式強震計、試験運用開始。
1988(昭和63). 9. 29 67型磁気テープ記録式電磁地震計用時刻符号化装置を更新。
1989(平成 1). 6. 1 87型電磁式強震計による一般通報観測、正式運用開始。

- 1989(平成 1). 10. 1 87型電磁式強震計による調査観測、正式運用開始。
 1990(平成 2). 1. 16 88型小地震観測装置感部、埋設工事開始。
 1990(平成 2). 2. 1 88型小地震観測装置感部、埋設工事完了。
 1990(平成 2). 3. 14 59C型直視式電磁地震計、仮庁舎へ移設。
 1990(平成 2). 3. 15 67型及び76型磁気テープ記録式電磁地震計のラック、52B型強震計、87型電磁式強震計、仮庁舎へ移設。
 1990(平成 2). 3. 16 67型磁気テープ記録式電磁地震計感部を88型小地震観測装置感部に切替え。67改造型電磁地震計として試験観測開始。
 1990(平成 2). 11. 21 59C型直視式電磁地震計、76型磁気テープ記録式電磁地震計87型電磁式強震計、新庁舎に移設し、運用再開。
 1990(平成 2). 11. 22 67改造型電磁地震計、52B型強震計、新庁舎に移設し、運用再開。
 1991(平成 3). 3. 29 67改造型電磁地震計、改造完了。
 1991(平成 3). 3. 31 52B型強震計、運用中止。
 1992(平成 4). 12. 24 90型計測震度計、待受け工事。
 1993(平成 5). 2. 2 90型計測震度計設置、試験運用開始。
 1993(平成 5). 4. 1 90型計測震度計による観測開始。
 1993(平成 5). 4. 11 地震計用UPS設置。67改造型電磁地震計、76型磁気テープ記録式電磁地震計に地震資料伝送装置を接続。
 1994(平成 6). 10. 3 76型磁気テープ記録式電磁地震計、観測中止。
 1994(平成 6). 11. 1 59C型直視式電磁地震計、67改造型電磁地震計、運用中止。
 1995(平成 7). 4. 6 59C型直視式電磁地震計、67改造型電磁地震計、76型磁気テープ記録式電磁地震計及び地震伝送装置を撤去。
 1996(平成 8). 4. 1 体感による震度観測中止。
 1997(平成 9). 3. 31 87型電磁式強震計、運用中止。

地震計観測位置

N 39° 03.7' E 141° 43.1' H 37. m

- 59型直視式電磁地震計
 1963(昭和38). 6. 14 - 1980(昭和55). 3. 19
 52B型強震計
 1963(昭和38). 6. 14 - 1991(平成 3). 3. 31
 67型磁気テープ記録式電磁地震計
 1970(昭和45). 3. 12 - 1994(平成 6). 11. 1
 59C型直視式電磁地震計
 1980(昭和55). 3. 19 - 1994(平成 6). 11. 1
 87型電磁式強震計
 1988(昭和63). 8. 5 - 1997(平成 9). 3. 31
 90型計測震度計
 1993(平成 5). 4. 1 -

隔測地震計

- 76型磁気テープ記録式電磁地震計(大船渡2)
 1978(昭和53). 4. 18 - 1994(平成 6). 10. 3

【マイクロフィルム化されている一番古い地震記象紙】

1963年(昭和38年)7月4日の59型直視式電磁地震計(3成分)

津波観測業務履歴(長崎:NAGASAKI)

- 1963(昭和38). 8. 1 大船渡検潮所(茶屋前)、遠隔自記ロボット検潮所(長崎港)で検潮観測開始。
 1968(昭和43). 10. 30 津波観測の実施官署となる(観測地点:長崎)。
 1968(昭和43). 11. 25 津波観測の実施官署としての業務開始。
 1971(昭和46). 11. 17 大船渡湾外の長崎港の無線ロボット検潮器撤去。
 1971(昭和46). 12. 16 大船渡湾奥、大船渡検潮所に新型無線ロボット検潮器を設置。
 1973(昭和48). 5. 24 大船渡検潮所を湾奥から長崎(湾口)へ移設。仙台へ隔測。

津波観測位置

大船渡検潮所

- 1963(昭和38). 8. 1 - 1973(昭和48). 5. 24
 大船渡市大船渡町字茶屋前
 N 39° 04' E 141° 43'

1968(昭和43). 11. 25 大船渡市赤崎町字長崎(住居表示変更)
1971(昭和46). 11. 17 大船渡市大船渡町字茶屋前(住居表示変更)
1973(昭和48). 5. 24 -
大船渡市赤崎町字長崎漁港防波堤(移転)
N 39° 01' 00" E 141° 45' 26"

水沢(緯度観測所): Mizusawa

JMAコード: MIZUSA、USGSコード: MIZ

官署来歴

1899(明治32). 12. 11 緯度観測所設立(文部省所管)

震度観測地点

1899(明治32). 12. 11 水沢市星が丘2番12号
N 39° 08.0' E 141° 08.0' H 62m

地震観測履歴

1902(明治35). 1. 大森式微動計(E-W、V=100)、大森式地動計(N-S、V=20)観測開始
1926(大正15). . 大森式地動計(OS、教育品製造製、南北動、制振なし、固有周期36秒、倍率20倍、
摩擦値0.08)
大森式微動計(OT、教育品製造製No76、東西動、制振なし、固有周期19秒、倍率
100倍、摩擦値0.04)
時計、Favre-Brandt No217、Schwab-Freis & Co No41631、無線報時
1933(昭和8). 1. 那須式簡単微動計(3成分、V=25)観測開始、
(1943年12月~1955年観測中止、浜松(1966)による)
1970(昭和45). . 気象庁への地震観測報告中止。

地震計観測位置

N 39° 08.0' E 141° 08.0' H 62. m

大森式微動計

1902(明治35). 1. - 1960年代まで観測

大森式地動計

1902(明治35). 1. - 1960年代まで観測

那須式微動計

1933(昭和8). 1.

大船渡2: Ohfunato2(猪川: Ikawa)

JMAコード: OFUNA2、USGSコード: OFUJ

観測点来歴

1978(昭和53). 8. 15 76型隔測のため無人観測点開設。
大船渡市猪川町西山5番地
N 39° 04.8' E 141° 40.1' H 180. m

地震観測履歴

1978(昭和53). 4. 21 76型磁気テープ記録式電磁地震計、試験運用開始。大船渡測候所で隔測観測。
1978(昭和53). 8. 15 76型磁気テープ記録式電磁地震計、正式運用開始(5000倍)。
1982(昭和57). 4. 13 76型地震計の送信局側の電源ラインに耐雷トランス設置。
1983(昭和58). 5. 6 76型地震計の送信局電々公社側にも耐雷トランスを設置。
1994(平成6). 10. 3 76型磁気テープ記録式電磁地震計、観測中止。
1995(平成7). 3. 29 観測局舎解体撤去。

地震計観測位置

N 39° 04.8' E 141° 40.1' H 80. m

76型磁気テープ記録式電磁地震計 埋設型 観測井の深さ100m

1978(昭和53). 4. 18 - 1994(平成6). 10. 3

宮城県

仙台:Sendai

JMAコード: SENDAI、USGSコード: SEN

官署来歴

- 1926(大正15). 10. 1 宮城県立石巻測候所仙台出張所創立(宮城県所管)。
- 1935(昭和10). 5. 1 宮城県立仙台測候所となる。
- 1937(昭和12). 10. 28 中央气象台仙台測候所新設。(国営、文部省所管)
- 1939(昭和14). 11. 1 仙台地方气象台となる。(県営廃止、業務を国営に移管)
- 1945(昭和20). 8. 11 仙台管区气象台となる。

震度観測地点

- 1926(大正15). 10. 1 仙台市鉄砲町1番地
N 38° 15.6′ E 140° 54.0′ H 38.4m(露)
- 1981(昭和56). 9. 10 仙台市五輪1丁目3番15号 仙台第3合同庁舎(移転)
H 43.3m(気)
- 1989(平成 1). 4. 1 仙台市宮城野区五輪1丁目3番15号 仙台第3合同庁舎
(住居表示変更)

地震観測履歴

- 1926(大正15). 7. 30 地震計室落成。
- 1926(大正15). 8. 12 ウィーヘルト(ゲッティンゲン製)、大森式地動計2成分
(20倍塩坂連作製磁気制振器、刻時打点吸上)、大森式単微動計(50倍、中央气象台製制振器なし刻時打点吸上)、中村式強震計(水平:2倍、上下:3倍、横尾新太郎製磁気制振器、刻時成分別変位方式)設置完了試験観測開始。(験震時報, 2, 214.によれば、同日ウ式及び大森式地動計、同単微動計、同強震計)とある。
- 1926(大正15). 10. 1 正式観測開始。
- 1926(大正15). . . ウィーヘルト地震計(Spindler & Hoyer製、倍率水平動90倍上下動80倍)
大森式地動計(OS、アレク製、No167、No168、電磁制振 固有周期20.0秒、倍率20倍、摩擦値0.004、制振度4)
大森式強震計(OL、中央气象台製、No12、電磁制振、水平動倍率1.5倍、上下動3.0倍、固有周期4.0秒、摩擦値0.004、制振度3.0、写真から見ると中村式ではなく大森式が正しいと思われる。)
大森式単微動計(OP、横尾製、No145、電磁制振、倍率50倍、固有周期4.0秒、摩擦値0.004、制振度3.0)
時計、Favre Brandt, Nardan No2101、無線報時
- 1939(昭和14). 12. 26 大森式単微動計の刻時を吸上方式のみとし打点機構撤去。
- 1942(昭和17). 3. 22 大森式単微動計、観測中止。
(仙台の地震観測原簿によれば、昭和18年には、中央气象台型強震計3成分2倍、タイム別針との記載がある。)
- 1948(昭和23). 8. 13 大森式地動計、使用倍率10倍に変更。
- 1950(昭和25). 10. 1 50型強震計(すす書き。気象測器製作所製)設置観測開始。
- 1950(昭和25). 11. 9 0.4倍強震計(緑明舎製)設置。
- 1951(昭和26). 2. 20 0.4倍強震計(緑明舎製)観測開始(部品に破損部あり本庁にて修理のため開始が遅れる)。
- 1951(昭和26). 7. 51型感震器設置。
- 1952(昭和27). 3. 22 時報受信及び刻時装置据付け。ウィーヘルト式地震計水平成分記録装置改新(これにより1分間の長さ30mmより60mmとなる。またJ J Yパルスによりルローア電接時計振子と起動器回転振子毎秒既正可能となる)。
- 1956(昭和31). 5. 1 中村式強震計、観測中止。
- 1956(昭和31). 9. 3 中村式強震計撤去。
- 1957(昭和32). 5. 11 地震観測用時報検出装置、設置。
- 1957(昭和32). 6. 1 地震観測用時報検出装置、使用開始。
- 1957(昭和32). 6. 7 ウィーヘルト式地震計水平動に磁石式制振器使用開始。
- 1958(昭和33). 10. 11 50型強震計記録部ドラム、ドラム受台等改良型と更新。
- 1959(昭和34). 2. 感震器を51B型に更新。また、58型くん煙装置(試験用。ウィーヘルト式・強震)

- 計象紙用)設置。
- 1960(昭和35). 5. 6 大森式地動計2成分に 2/3秒周期円錐振子起動器に更新。
- 1960(昭和35). 5. 10 石巻から移管の 54B型普通地震計、仮設置。
- 1962(昭和37). 4. 14 61型感震器(周期10秒)設置。
- 1962(昭和37). 8. 20 50型強震計刻時装置改良型(52型と同形)に交換(在来刻時が別線に記録されていたのが中央(南北)成分に刻時が入るようになる)。
- 1962(昭和37). 年度 50型強震計に振止め装置及び刻時装置を取付け。
- 1963(昭和38). 10. 22 電磁地震計設置のための地震計室改修にともないウィーヘルト式地震計、大森式地動計、観測中止撤去。0.4倍強震計、50型強震計観測休止(10月31日まで54B型普通地震計、50型強震計、ボイラー室に仮設臨時観測)時報受信及び刻時装置撤去。
- 1963(昭和38). 12. 24 地震計室改修完成。59型直視式電磁地震計(すす書き)設置、試験運用開始。50型強震計、0.4倍強震計、54B型普通地震計、観測再開。
- 1964(昭和39). 1. 1 59型直視式電磁地震計(すす書き)正式運用開始。
- 1964(昭和39). 3. 4 61型感震器(南北成分)に検流計をつけ記録開始。
- 1964(昭和39). 7. 54B型普通地震計新潟地震余震観測(7月4日から23日)のため本庁に貸出。
- 1965(昭和40). 1. 1 10倍地震計(水平成分のみ)、観測開始(本庁より移管)。
- 1965(昭和40). 4. 8 54B型普通地震計、石巻へ移管。
- 1965(昭和40). 12. 31 61型感震器よりの記録、グラウンドノイズ大のため中止(感震器として使用)。
- 1966(昭和41). 3. 8 50型強震計、すす書きをインク書きに改造。
- 1969(昭和44). 9. 下 59型地震計のCCP電力増幅器をトランジスター化。
- 1970(昭和45). 3. 16 59型直視式電磁地震計、すす書きをインク書きに改造のため、観測休止。
- 1970(昭和45). 5. 16 59型直視式電磁地震計の改造完了、観測再開。
- 1972(昭和47). 5. 29 59型直視式電磁地震計にゴミ取り装置を取付け。
- 1973(昭和48). 8. 30 50型強震計起動器、ゼンマイ式を電動式に改造。
- 1974(昭和49). 7. 4 10倍地震計観測中止。0.4倍地震計、インク書き及び起動器を電動式に改造のため観測休止。
- 1974(昭和49). 11. 1 広域地震監視装置設置のため、地震観測現業室拡張工事開始。
- 1974(昭和49). 12. 11 0.4倍強震計の改造(電動式)完了、観測再開。
- 1975(昭和50). 1. 31 地震観測現業室の拡張工事終了。
- 1976(昭和51). 6. 25 59型直視式電磁地震計の低周波増幅器、トランジスター化。
- 1976(昭和51). 9. 20 中域震度計試験運用開始。
- 1976(昭和51). 10. 5 61型直視記録、インク書きに改造。
- 1977(昭和52). 3. 8 61型記録部改造のため、モニター記録のみ休止。
- 1977(昭和52). 3. 17 JJY時報用アンテナ5MHZ用に張替え。
- 1977(昭和52). 3. 22 61型記録部改造完了、モニター記録再開。
- 1977(昭和52). 10. 18 67型の速報装置、秋田から白河に移設。これにより、仙台では、盛岡・大船渡・山形・白河の波形を隔測。
- 1981(昭和56). 11. 25 52C型強震計、旧庁舎(鉄砲町)で運用開始。50型強震計、新庁舎2階地震観測室に移設。
- 1982(昭和57). 2. 旧庁舎の地震計室を新庁舎へ移設。
- 1988(昭和63). 4. 27 59型電磁地震計の増幅器及び記録器を更新。
- 1988(昭和63). 8. 5 87型電磁式強震計、試験運用開始。
- 1989(平成 1). 6. 1 87型電磁式強震計による一般通報観測、正式運用開始。0.4倍強震計、観測中止。
- 1989(平成 1). 10. 1 87型電磁式強震計による調査観測、正式運用開始。
- 1990(平成 2). 3. 6 50型強震計、運用中止。
- 1992(平成 4). 3. 16 59型直視式電磁地震計、運用中止。宮古へ移設。
- 1992(平成 4). 3. 20 宮古から移設の61型直視式電磁地震計、運用開始。
- 1993(平成 5). 2. 17 90型計測震度計、試験運用開始。
- 1993(平成 5). 4. 1 90型計測震度計による震度観測開始。
- 1994(平成 6). 4. 1 緊急情報衛星同報受信装置、運用開始。
- 1994(平成 6). 11. 1 52C型強震計、運用中止。
- 1996(平成 8). 4. 1 体感による震度観測中止。
- 1997(平成 9). 4. 1 87型電磁式強震計、運用中止。

地震計観測位置

鉄砲町時代

N 38° 15.6' E 140° 54.0' H 不明

ウィーヘルト式地震計

1926(大正15). 8.12 - 1963(昭和38). 10.22

大森式地動計

1926(大正15). 8.12 - 1963(昭和38). 10.22

大森式簡単微動計

1926(大正15). 8.12 - 1942(昭和17). 3.22

中村式強震計

1926(大正15). 8.12 - 1956(昭和31). 5.1

50型強震計

1950(昭和25). 10.1 - 1982(昭和57). 2.

0.4倍強震計

1951(昭和26). 2.20 - 1982(昭和57). 2.

54B型普通地震計

1960(昭和35). 5.10 - 1965(昭和40). 4.8

59型直視式電磁地震計

1963(昭和38). 12.24 - 1982(昭和57). 2.

10倍地震計

1965(昭和40). 1.1 - 1974(昭和49). 7.4

61型直視式電磁地震計

1976(昭和51). 10.5 - 1982(昭和57). 3.1

五輪合同庁舎

N 38° 15.6' E 140° 54.0' H 36. m

50型強震計

1982(昭和57). 2. - 1990(平成 2). 3.6 H 不明 (新庁舎2階)

0.4倍強震計

1982(昭和57). 2. - 1989(平成 1). 6.1

59型直視式電磁地震計

1982(昭和57). 2. - 1992(平成 4). 3.16

61型直視式電磁地震計

1992(平成 4). 3.20 -

52C型強震計

1981(昭和56). 11.25 - 1982(昭和57). 2. H 不明 (新庁舎2階)

52C型強震計

1982(昭和57). 2. - 1994(平成 6). 11.1

87型電磁式強震計

1988(昭和63). 8.5 - 1997(平成 9). 4.1

90型計測震度計

1993(平成 5). 4.1 -

【マイクロフィルム化されている一番古い地震記象紙】

1926年(大正15年)10月12日の大森式地動計(南北成分)

津波観測業務履歴

1962(昭和37). 年度 遠隔自記検潮装置(無線隔測)設置。

1966(昭和41). 年度 鮎川検潮所改築工事。

1967(昭和42). 9. 鮎川検潮所改築工事完了。フース式検潮儀にロボット併設。

仙台管区気象台へ隔測。

1967(昭和42). 10.29 鮎川検潮所のフース式検潮儀に無線ロボットを併設。電波検査完了。仙台管区気象台へ隔測。

- 1973(昭和48). 12. 12 鮎川検潮所から仙台への隔測不良だったが、業者修理完了し隔測再開。
 1976(昭和51). 2. 12 鮎川検潮所、隔測装置更新のため、仙台への隔測中止。
 1976(昭和51). 3. 22 鮎川検潮所の隔測装置更新のための工事完了。
 1976(昭和51). 3. 26 鮎川検潮所の新隔測装置による隔測開始。
 1977(昭和52). 12. 14 津波観測の実施官署となる(観測地点：鮎川)。
 1978(昭和53). 1. 1 津波観測の実施官署としての業務開始。
 1980(昭和55). 7. 25 鮎川検潮所の送信器、雷のため符号変換部障害。
 1980(昭和55). 8. 26 鮎川検潮所の送信器、予備器と交換し復旧。

津波観測位置

鮎川検潮所

1943(昭和18). 10. -

牡鹿郡牡鹿町

N 38° 17' 37" E 141° 30' 31"

石巻:Ishinomaki(野蒜) JMAコード: ISHINO、USGSコード: ISN

官署来歴

- 1881(明治14). 4. 1 野蒜測候所創立。(地理局所管)
 1887(明治20). 4. 1 宮城県野蒜測候所となる。(地方移管)
 1935(昭和10). 5. 1 宮城県立仙台測候所石巻出張所となる。
 1938(昭和13). 10. 1 国営移管、中央气象台石巻観測所となる。(文部省所管)
 1941(昭和16). 10. 25 石巻測候所となる。

震度観測地点

- 1881(明治14). 7. 1 陸前国桃生郡野蒜港市街第25区
 N 38° 23' E 141° 11' H 4.5m
 1887(明治20). 9. 1 陸前国門脇村石巻続き字南鱒山(移転)
 N 38° 26' E 141° 19' H 43.3m
 1889(明治22). 4. 牡鹿郡石巻町字南鱒山(住居表示変更)
 1933(昭和 8). 4. 1 石巻市字南鱒山39番15(住居表示変更)
 N 38° 25.5' E 141° 18' H 43.3m
 1966(昭和41). 5. 1 石巻市泉町4丁目1番18号(住居表示変更)

地震観測履歴

- 1894(明治27). 5. 1 これ以前に地震計があったと考えられるが、型名その他不明。震災予防調査会報告2合139.に10月22日の庄内地震の記録あり。文部省内震災予防調査会、地震計の発信時刻を正確にせんがため、石巻電信局と本所と間に電線を仮設して正午通報をせり。
 1896(明治29). . 地震計用時計設置。
 1896(明治29). 7. 大型縫形地震計設置(東京機械製造会社製)。
 1901(明治34). 5. 15 クロノメーターを備え付け観測時刻を正確にならしむ。
 1901(明治34). 11. 耐震構造機械室落成。
 1902(明治35). 1. 4 大森式地動計(東西:10倍)及び強震計設置、観測開始。
 1908(明治41). 5. 29 大森式微動計(水平2成分、)設置。
 1908(明治41). 6. 1 大森式簡単微動計100倍、観測開始(教育品製造会社、明治38年6月製)。
 1916(明治49). 9. ミルン式普通地震計購入(石巻気象百年史)
 1919(大正 8). 8. 震災予防調査会より時刻を正確にするため無線電信器貸与され、船橋発時報受信開始する。
 1925(大正14). 1. 大森式地動計、設置。
 1926(大正15). . 普通地震計(ML、教育品製造製、18、制振なし
 水平動5倍、上下動10倍、水平動周期3秒、上下動1.3秒、摩擦値0.2) 大森式地動計(0S、横尾製、No127、No128、電磁制振固有周期20.0秒、倍率20倍、摩擦値

南北動0.5 東西動0.3、制振度南北動1.1、東西動1.0)

大森式簡單微動計(OP、教育品製造製、制振なし 倍率50倍、固有周期南北動3.0秒、東西動4.0秒、摩擦値南北動0.2、東西動0.1) 時計、J. Mary 850、J. Colomb、無線報時

- 1945(昭和20). 7. 1 地震計による観測休止。
- 1949(昭和24). 4. 1 大森式簡單微動計、大森式地動計(東西)観測再開。
- 1951(昭和26). 5. 11 50型強震計(すす書き。気象測器製作所製)観測開始。
- 1951(昭和26). 8. 13 51型感震器設置。
- 1951(昭和26). 12. 12 中央気象台型簡單微動計(空気制振器時刻吸上式)観測開始。
- 1954(昭和29). 3. 20 ルロア一時計設置。
- 1957(昭和32). 5. 6 地震観測用時報検出装置設置。
- 1957(昭和32). 10. 10 54B型普通地震計、試験運用開始。大森式簡單微動計、観測中止。
- 1957(昭和32). 10. 16 54B型普通地震計、正式運用開始。
- 1960(昭和35). 1. 20 54B型普通地震計観測中止。
- 1960(昭和35). 1. 24 59型光学式(1000倍)及び直視式(すす書き)電磁地震計設置工事開始(29日まで)。
- 1960(昭和35). 2. 1 59型光学式及び直視式電磁地震計、試験観測開始。
- 1960(昭和35). 4. 1 59型光学式及び直視式電磁地震計、正式運用開始。
- 1960(昭和35). 4. 59型直視式電磁地震計の上下動吊りバネをコエリンバーに交換。また、ガルパノ
- 1962(昭和37). 9. 6 50型強震計に振止め装置及び刻時装置を取付け。
- 1965(昭和40). 3. 地震計室改築。
- 1965(昭和40). 3. 23 故障のため、59型電磁地震計による観測休止。
- 1965(昭和40). 4. 8 54B型普通地震計(仙台管区予備)にて観測開始。
- 1966(昭和41). 年度 59型電磁地震計オーバーホール。地震計室に除湿器設置。
- 1967(昭和42). 3. 59型電磁式地震計オーバーホール完了。
- 1967(昭和42). 4. 26 54B型普通地震計、観測中止。
- 1967(昭和42). 4. 27 59型直視式電磁地震計、観測再開。
- 1969(昭和44). 11. 20 50型強震計、すす書きをインク書きに改造。
- 1971(昭和46). 2. 21 67型磁気テープ式電磁地震計(地上型)設置、試験運用開始。
- 1971(昭和46). 6. 1 67型磁気テープ記録式電磁地震計、正式運用開始。59型光学式電磁地震計、観測中止。
- 1972(昭和47). 3. 9 59型直視式電磁地震計、すす書きをインク書きに改造のため観測休止。
- 1972(昭和47). 3. 27 59型直視式電磁地震計改造完了、観測再開。
- 1972(昭和47). 年度 59型直視式電磁地震計にゴミ取り装置を取付け。
- 1979(昭和54). 2. 5 強震計起動器、ゼンマイ式を電動式に改造。
- 1980(昭和55). 3. 15 59C型直視式電磁地震計、正式観測開始。59型直視式電磁地震計、観測中止。
- 1981(昭和56). 年度 仙台 L-ADESS整備。地震資料伝送装置設置。67型の地震波形を電話回線により仙台へ伝送。
- 1988(昭和63). 67型磁気テープ記録式電磁地震計用時刻符号化装置を更新。
- 1988(昭和63). 8. 5 87型電磁式強震計、試験運用開始。
- 1989(平成 1). 6. 1 87型電磁式強震計による一般通報観測、正式運用開始。
- 1989(平成 1). 10. 1 87型電磁式強震計による調査観測、正式運用開始。
- 1993(平成 5). 4. 1 90型計測震度計、運用開始。
- (以下計測震度計に関する記事は省略)
- 1994(平成 6). 11. 1 59C型直視式電磁地震計、67型磁気テープ記録式電磁地震計 運用中止。
- 1996(平成 8). 4. 1 体感による震度観測中止。
- 1997(平成 9). 4. 1 87型電磁式強震計、運用中止。

地震計観測位置

N 38° 25.5' E 141° 18.2' H 44. m

名称不明

1894(明治27). 5. 以前- 不明

銚形験震器

1896(明治29). 7. - 不明

大森式地動計

1902(明治35). 1. 4 - 1933(昭和 8). 4. 1
 1933(昭和 8). 4. 1 - 1945(昭和20). 7. 1
 1949(昭和24). 4. 1 - 不明
 強震計(名称不明)
 1902(明治35). 1. 4 - 不明
 大森式微動計
 1908(明治41). 6. 1 - 1945(昭和20). 7. 1
 1949(昭和24). 4. 1 - 1957(昭和32). 10. 10
 50型強震計
 1951(昭和26). 5. 11 - 1991(平成 3). 3. 31
 中央气象台型簡單微動計
 1951(昭和26). 12. 12 - 不明
 54B型普通地震計
 1957(昭和32). 10. 10 - 1960(昭和35). 1. 20
 1965(昭和40). 4. 8 - 1967(昭和42). 4. 26
 59型光学式電磁地震計
 1960(昭和35). 2. 1 - 1965(昭和40). 3. 23
 1967(昭和42). 4. 27 - 1971(昭和46). 6. 1
 59型直視式電磁地震計
 1960(昭和35). 2. 1 - 1965(昭和40). 3. 23
 1967(昭和42). 4. 27 - 1980(昭和55). 3. 15
 67型磁気テープ式電磁地震計
 1971(昭和46). 2. 21 - 1994(平成 6). 11. 1
 59C型直視式電磁地震計
 1980(昭和55). 3. 15 - 1994(平成 6). 11. 1
 87型電磁式強震計
 1988(昭和63). 8. 5 - 1997(平成 9). 4. 1
 90型計測震度計
 1993(平成 5). 4. 1 -

【マイクロフィルム化されている一番古い地震記象紙】

1927年(昭和2年)1月7日の大森式地動計(水平2成分)、簡單微動計(東西成分)、
 ミルン式強震計(南北成分、ミルン式とは大森式を指すものと思われる)

津波観測履歴

1981(昭和56). 3. 仙台に設置してある、鮎川検潮所の遠隔自記検潮装置を石巻に移設。石巻から仙
 台へ隔測。
 1982(昭和57). 11. 4 津波観測の実施官署となる(観測地点：鮎川)。
 1982(昭和57). 11. 15 津波観測の実施官署としての業務開始。
 1995(平成 7). 4. 1 津波観測の実施官署としての業務廃止。

津波観測位置

鮎川検潮所

1943(昭和18). 10. -
 牡鹿郡牡鹿町
 N 38° 17' 37" E 141° 30' 31"

金山：Kaneyama

JMAコード：KANEYA

官署来歴

1897(明治31). 1. 1 私設金山2等測候所設立(地元篤志家佐野理八氏による)
 石巻気象百年史、気象集誌に記事あり。

1924(大正13) 測候所廃止
震度観測地点
1897(明治30) . . . 伊具郡丸森町金山(位置は推定)
N 37° 53' E 140° 46' H22.5m

地震観測履歴

1918(大正 7) 測候所20周年記念の半地下式地震計室竣工
大森式地動計南北20倍、大森式微動計南北50倍を設置観測開始、大正12年の関東地震の余震の検測値、1925年まで検測値、地震調査原簿にあり。
1926(大正15) . . . 大森式地動計(OS、明石製、No247、制振なし、倍率20倍 東西動固有周期8秒)
大森式微動計(OT、戸谷製、No494、制振なし、倍率50倍 南北動固有周期16秒)、
時刻、Arnold & Dent No1247、戸谷 No516、無線報時

地震計観測位置

大森式地動計

1918(大正 7) . . . - 1925(大正14) . . .

大森式微動計

1918(大正 7) . . . - 1925(大正14) . . .

山形県

山形:Yamagata JMAコード:YAMAGA、USGSコード:YAM

官署来歴

1889(明治22). 7. 1 山形県立山形2等測候所創立。
1939(昭和14). 11. 1 山形測候所となる。(国営移管、文部省所管)
1957(昭和32). 9. 1 山形地方气象台となる。

震度観測地点

1889(明治22). 7. 1 山形市大字六日町1042番地 県庁構内
N 38° 14' E 140° 21' H 151.9m
1892(明治25). 6. 1 山形市大字香澄町字桜小路1番地 旧戸町役場(移転)
N 38° 15' E 140° 20' H 135.8m
1894(明治27). 9. 1 山形市旅籠町字北東原 611番地(移転)
N 38° 14' E 140° 21' H 153.9m
1910(明治43). 6. 23 山形市六日町字寒河江町1025番地(移転)
N 38° 15.2' E 140° 20.9' H 152.5m
1955(昭和30). 7. 1 山形市緑町1丁目7番13(住居表示変更)
1964(昭和39). 4. 1 山形市緑町1丁目5番77号(住居表示変更)

地震観測履歴

1889(明治22). 7. 1 中村式簡単微動計(中村式というのは、中村浅吉製の意味で、銚形験震器のことであろう、浜松注)にて開始(地震の強弱の観測、感震器と時計および円筒示針等を備え電気作用により大地震動の強弱、方向等を測るにあり)。
1889(明治22). 12. 9 体感による地震観測開始。
1895(明治28). グレー・ミルン・ユーイング式普通地震計、観測開始。
1896(明治29). 10. 山形郵便局間に電話線(震災予防調査会において)。
1913(大正 2). 9. 25 今村式強震計設置。
1922(大正11). グレー・ミルン・ユーイング式普通地震計、観測中止。
1922(大正11). 7. 中村式簡単微動計観測開始。
1926(大正15). . . 中村式簡単微動計(NS、アレス製、No4、電磁制振、倍率50倍、固有周期8秒、摩擦値南北動0.008、東西動0.007、制振度南北動3.6、東西動2.9)
時計、Dent 59094、無線報時
1936(昭和11). 11. 中央气象台型簡単微動計(緑名舎製)に更新。
1941(昭和16). 7. 10 今村式強震計、移設。
1941(昭和16). 7. 15 中村式簡単微動計、移設。
1941(昭和16). 8. 10 中央气象台型強震計、設置。
1942(昭和17). 10. 13 中央气象台型簡単微動計、移設。

- 1942(昭和17). 今村式強震計、中村式簡單微動計、観測中止。
- 1952(昭和27). 7. 10 52型強震計(すず書き。気象測器製作所製)設置。
- 1952(昭和27). 中央気象台型強震計、観測中止。
- 1955(昭和30). 1. 11 51型感震器設置。
- 1957(昭和32). 5. 9 地震観測用時報検出装置設置。
- 1958(昭和33). 51B型感震器設置。
- 1960(昭和35). 5. 31 中央気象台型簡單微動計、観測中止。
- 1960(昭和35). 6. 1 54C型普通地震計、観測開始(強震計位置変更)。
- 1962(昭和37). 8. 4 52型強震計に振止め装置及び刻時装置を取付け。
- 1965(昭和40). 6. 29 59型くん煙装置設置。
- 1966(昭和41). 9. 29 52型強震計、すず書きをインク書きに改造。
- 1970(昭和45). 2. 25 67型磁気テープ式電磁地震計(速報装置付、埋設型:25.0m)設置。67型の地震波形を電話回線により仙台に伝送。
- 1970(昭和45). 3. 12 67型磁気テープ記録式電磁地震計、試験観測開始。
- 1970(昭和45). 6. 1 67型磁気テープ記録式電磁地震計、正式観測開始。54C型普通地震計、観測中止。
- 1975(昭和50). 6. 26 庁舎新築工事に伴い、67型磁気テープ記録式電磁地震計の変換器移設、観測開始。
- 1975(昭和50). 9. 17 強震計、仮設地震計室へ移設。
- 1976(昭和51). 1. 14 59B型直視式電磁地震計(インク書き)、試験運用開始。
- 1976(昭和51). 4. 1 59B型直視式電磁地震計、正式運用開始。
- 1976(昭和51). 9. 3 新庁舎落成に伴い、仮地震計室から新地震計室へ地震計移設。
- 1978(昭和53). 4. 14 76型磁気テープ記録式電磁地震計(10000倍。山形で隔測観測。感部は、山形の西南西29kmの位置)、試験運用開始。
- 1978(昭和53). 8. 15 76型磁気テープ記録式電磁地震計、正式運用開始。
- 1979(昭和54). 2. 8 強震計起動器、ゼンマイ式を電動式に改造。
- 1981(昭和56). 1. 29 仙台L-ADESS整備。地震資料伝送装置及び強震計変換器設置。67型及び強震計(水平成分)、山形2の76型の地震波形を電話回線により仙台へ伝送。運用開始。
- 1988(昭和63). 11. 29 67型磁気テープ記録式電磁地震計用時刻符号化装置を更新。
- 1994(平成 6). 4. 1 93型計測震度計による震度観測開始。
- 1994(平成 6). 10. 30 52型強震計、67型磁気テープ記録式電磁地震計、76型磁気テープ記録式電磁地震計、運用中止。
- 1995(平成 7). 2. 28 59B型直視式電磁地震計、運用中止。
- 1996(平成 8). 3. 14 95型計測震度計運用開始、93型計測震度計運用中止。
- 1996(平成 8). 4. 1 体感による震度観測中止。
- 1999(平成11). 3. 26 震度データ転送装置設置。

地震計観測位置
県庁構内時代

N 38° 14' E 140° 21' H 不明

錠形験震器

1889(明治22). 7. 1 - 不明

旅籠町時代

N 38° 14' E 140° 21' H 153.9m

グレー・ミルン・ユーイング式普通地震計

1895(明治28). - 1910(明治43). 6. 23

緑町時代

N 38° 15.2' E 140° 20.9' H 152.5m

グレー・ミルン・ユーイング式普通地震計

1910(明治43). 6. 23 - 1922(大正11).

今村式強震計

1913(大正 2). 9. 25 - 1942(昭和17).

中村式簡單微動計

1922(大正11). 7. - 1942(昭和17).

中央気象台型簡單微動計

1936(昭和11). 11. - 1960(昭和35). 5. 31

中央気象台型強震計

1941(昭和16). 8. 10 - 1952(昭和27).

52型強震計

1952(昭和27). 7. 10 - 1994(平成 6). 10. 30
 54C型普通地震計
 1960(昭和35). 6. 1 - 1970(昭和45). 6. 1
 67型磁気テープ記録式電磁地震計(埋設深度: 30m)
 1970(昭和45). 4. - 1994(平成 6). 10. 30 (H 123. m)
 59B型直視式電磁地震計
 1976(昭和51). 1. 14 - 1995(平成 7). 2. 28
 93型計測震度計
 1994(平成 6). 4. 1 - 1996(平成 8). 3. 14
 95型計測震度計
 1996(平成 8). 3. 14 -

隔測地震計

76型磁気テープ記録式電磁地震計 埋設型 観測井の深さ100m
 1978(昭和53). 4. 11 - 1994(平成 6). 10. 30

【マイクロフィルム化されている一番古い地震記象紙】

1923年(大正12年)9月1日中村式簡単微動計(水平2成分)

酒田:Sakata

JMAコード: SAKATA、USGSコード: SAK

官署来歴

1937(昭和12). 1. 1 山形県立山形測候所酒田支所創立。
 1938(昭和13). 10. 1 国営移管、中央气象台酒田測候所。(文部省所管)
 1939(昭和14). 11. 1 酒田測候所となる。

震度観測地点

1937(昭和12). 1. 1 酒田市鶴渡川原字小中島 5番地
 N 38° 54.2' E 139° 50.2' H 2.0m
 1944(昭和19). 3. 6 酒田市小中島11番地(住居表示変更)
 1967(昭和42). 5. 1 酒田市堤町3番6号(住居表示変更)
 1970(昭和45). 3. 6 酒田市亀ヶ崎1丁目4番14号(移転)
 N 38° 54.3' E 139° 50.8' H 3.1m

地震観測履歴

1937(昭和12). 1. 1 地震観測開始。
 1937(昭和12). 1. 1 中央气象台型簡単微動計(空気制振器付)にて観測開始
 (3月7日から報告)。
 1952(昭和27). 9. 1 52型強震計(すず書き。気象測器製作所製)観測開始。
 1955(昭和30). 1. 4 51B型感震器設置。
 1957(昭和32). 8. 26 54B型普通地震計、正式運用開始。中央气象台型簡単微動計観測中止。
 1962(昭和37). 9. 13 52型強震計に振止め装置及び刻時装置を取付け。
 1967(昭和42). 12. 28 52型強震計、すず書きをインク書きに改造。
 1970(昭和45). 3. 2 都市道路整備に伴い、庁舎移転。地震計による観測休止。
 1970(昭和45). 3. 6 移転完了。強震計による観測再開。
 1970(昭和45). 3. 17 67型磁気テープ式電磁地震計(埋設型: 30.5m)設置、試験観測開始。
 1970(昭和45). 6. 1 67型磁気テープ記録式電磁地震計、正式観測開始。54B型普通地震計は観測中止。
 1970(昭和45). 8. 67型磁気テープ記録式電磁地震計による常時微動調査(9月まで)。
 1971(昭和46). 1. 67型磁気テープ記録式電磁地震計による常時微動調査(2月まで)。
 1971(昭和46). 10. 67型磁気テープ記録式電磁地震計、移設のための観測地点予備調査。
 1972(昭和47). 9. 67型磁気テープ記録式電磁地震計移設地点の常時微動観測。
 1973(昭和48). 6. 67型磁気テープ記録式電磁地震計移設地点決定し、測候所構内の埋設型変換器引
 上げ。
 1973(昭和48). 6. 19 67型磁気テープ記録式電磁地震計変換器、酒田市近郊松山町松嶺、洞滝山総光寺
 境内(酒田の南東約12kmの位置)へ移設のため観測中止。
 1973(昭和48). 11. 7 67型磁気テープ記録式電磁地震計(隔測、埋設型: 20m)観測開始。
 電話回線による隔測観測開始。
 1978(昭和53). 3. 17 52型強震計起動器、ゼンマイ式を電動式に改造。
 1988(昭和63). 8. 5 87型電磁式強震計、試験観測開始。

- 1989(平成 1). 6. 1 87型電磁式強震計による一般通報観測、正式運用開始。
 1989(平成 1). 10. 1 87型電磁式強震計による調査観測、正式運用開始。
 1992(平成 4). 3. 31 52型強震計、運用中止。
 1993(平成 5). 4. 1 90型計測震度計による震度観測開始。
 1994(平成 6). 11. 1 67型磁気テープ記録式電磁地震計、運用中止。
 1997(平成 9). 3. 31 87型電磁式強震計、運用中止。
 1996(平成 8). 4. 1 体感による震度観測中止。
 90型計測震度計に機能付加し、95型計測震度計として運用開始。

地震計観測位置

堤町時代

N 38° 54.2' E 139° 50.2' H 2.0m

中央气象台型単微動計

1937(昭和12). 1. 1 - 1957(昭和32). 8. 26

52型強震計

1952(昭和27). 9. 1 - 1970(昭和45). 3. 2

54B型普通地震計

1957(昭和32). 8. 26 - 1970(昭和45). 3. 2

亀ヶ崎時代

N 38° 54.3' E 139° 50.8' H 3.1m

52型強震計

1970(昭和45). 3. 6 - 1992(平成 4). 3. 31

54B型普通地震計

1970(昭和45). 3. 6 - 1970(昭和45). 6. 1

67型磁気テープ式電磁地震計(埋設型: 30.5m)

1970(昭和45). 3. 17 - 1973(昭和48). 6. 19

87型電磁式強震計

1988(昭和63). 8. 5 - 1997(平成 9). 3. 31

90型計測震度計

1993(平成 5). 4. 1 -

隔測地震計

67型磁気テープ記録式電磁地震計(酒田2)

1973(昭和48). 11. 7 - 1994(平成 6). 11. 1

地質、地盤、地形

堤町時代

地形 : 扇状地。

地質・地盤 : 沖積層(砂、粘土; 埋立地)。N値不明、
 岩盤は千数百m(沖積層の下の地層: 第三紀層)

亀ヶ崎時代

地形 : 扇状地

地盤 : 沖積層(砂、シルト、粘土)

N値 :

深度	N値
1.20 ~ 2.00m	3
~ 6.90m	自沈- 1
~ 9.80m	7~22
~21.00m	4~19
~24.20m	28~32
~30.30m	10~15

岩盤 : 千数百m(沖積層の下の地層: 第三紀層)

ボーリング柱状 :

深度	土質
0 ~ 1.20m	表土
~ 2.00m	粘土質シルト
~ 4.50m	有機質シルト
~ 6.90m	腐植土

- ～ 8.30m シルト質細砂
- ～ 9.80m 細砂
- ～ 13.30m シルト
- ～ 18.70m 砂混じりシルト
- ～ 19.55m 細砂
- ～ 20.20m シルト
- ～ 21.10m シルト質細砂
- ～ 24.20m 中砂
- ～ 27.40m シルト
- ～ 29.30m シルト混じり細砂
- ～ 30.30m 砂混じりシルト

【マイクロフィルム化されている一番古い地震記象紙】

1937年(昭和12年)1月4日の中央気象台型簡単微動計(水平2成分)

新庄:Shinjyo

JMAコード: SHINJO

官署来歴

- 1956(昭和31). 9. 1 新庄測候所創立。(運輸省所管)
- 1998(平成10). 3. 31 測候所廃止。

震度観測位置

- 1956(昭和31). 9. 1 新庄市大字松本字向野 551番地の1
N 38° 44.6' E 140° 17.9' H 94.4m
- 1980(昭和55). 7. 1 新庄市大字松本 551番地の1(住居表示変更)
- 1985(昭和60). 11. 1 新庄市東谷地田町6番4号 新庄合同庁舎(移転)
N 38° 45.3' E 140° 18.9' H 105.1m(露)

地震観測履歴

- 1957(昭和32). 9. 1 地震観測開始。
- 1992(平成 4). 4. 1 90型計測震度計による震度観測開始。
- 1996(平成 8). 4. 1 体感による震度観測中止。

地震計観測位置

N 38° 45' E 140° 18' H 95. m

90型計測震度計

- 1992(平成 4). 4. 1 -

山形2:Yamagata2(白鷹:Shirataka)

JMAコード: YAMAG2、USGSコード: YAMJ

観測点来歴

- 1978(昭和53). 8. 15 西置賜郡白鷹町大字高玉4番地、76型隔測のため開設
N 38° 10.4' E 140° 02.2' H 280. m

地震観測履歴

- 1978(昭和53). 4. 14 76型磁気テープ記録式電磁地震計、試験運用開始。山形地方気象台で隔測観測。
- 1978(昭和53). 8. 15 76型磁気テープ記録式電磁地震計(10000倍)、正式運用開始。
- 1981(昭和56). 年度 76型地震計の送信局側の電源ラインに耐雷トランス設置。
- 1982(昭和57). 年度 76型地震計の送信局電々公社側にも耐雷トランスを設置。
- 1994(平成 6). 10. 30 76型磁気テープ記録式電磁地震計、運用中止。

地震計観測位置

N 38° 10.4' E 140° 02.2' H 180. m

76型磁気テープ記録式電磁地震計 埋設型 観測井の深さ100m

- 1978(昭和53). 4. 11 - 1994(平成 6). 10. 30

酒田2:Sakata2

JMAコード：SAKAT2、USGSコード：SKH

観測点来歴

1973(昭和48).11.7 67型地震計隔測のため開設
山形県飽海郡松山町松嶺 洞滝山総光寺境内
N 38° 51.4' E 139° 58.4' H 58m

地震観測履歴

1973(昭和48).11.7 67型磁気テープ記録式電磁地震計、酒田測候所から移設。酒田測候所で隔測観測開始。
1994(平成6).11.1 67型磁気テープ記録式電磁地震計、運用中止。

地震計観測位置

N 38° 51.4' E 139° 58.4' H 80m
67型磁気テープ記録式電磁地震計(隔測、埋設：2m)
1973(昭和48).11.7 - 1994(平成6).11.1

地質、地盤、地形

地形 : 不明(扇状地に隣接)。
地盤 : 不明(砂、シルト、粘土)
N値 : 不明
岩盤 : 不明
ボーリング柱状 :

深度	土質
0 ~ 1.0m	表土
~ 3.5m	シルト質粘土
~ 7.5m	粘土
~ 9.0m	シルト細砂混じり
~15.0m	シルト粘土
~20.0m	シルト
~25.5m	シルト質粘土
~30.5m	シルト

福島県

福島:Fukushima

JMAコード：FUKUSH、USGSコード：FKS

官署来歴

1889(明治22).5.1 福島県立福島二等測候所創立。
1891(明治24).4.1 福島県立福島測候所となる。
1938(昭和13).10.1 国営移管、中央气象台福島測候所となる(文部省所管)。
1939(昭和14).11.1 福島測候所となる。
1957(昭和32).9.1 福島地方气象台となる。

震度観測位置

1889(明治22).5.1 信夫郡渡利村字七社宮27 農事試験場内
N 37° 45' E 140° 24' H 60.7m
1928(昭和3).2.1 福島市大字腰ノ浜字大谷地1番地
N 37° 45.4' E 140° 28.5' H 67.3m
1931(昭和6).5.19 福島市松木町2番地(住居表示変更)
1965(昭和40).8.1 福島市松木町1番9号(住居表示変更)

地震観測履歴

1889(明治22).8.13 地理局より借用の驗震器にて観測開始。
1895(明治28). . . グレー・ミルン・ユーイング式普通地震計設置。(気象30年報(大正9年)によると、明治24年よりグレー・ミルン・ユーイング式普通地震計があったが、不調などで、実際には明治28年から使用したらしい。)
1925(大正14).5.15 大森式簡單微動計(昭和23年6月まで予備測器として保有)。
1926(大正15). . . 普通地震計(MS、教育品製造製、No17、制振なし、倍率水平動5倍、上下動10倍)時刻、Russells No7081、無線報時

- 1927(昭和 2). 4. 中央気象台型簡単微動計、設置。
 1928(昭和 3). 10. ウィーヘルト式地震計(アレス製)設置。
 1928(昭和 3). 11. 13 ウィーヘルト式地震計、正式観測開始。
 1940(昭和15). 10. 14 強震計(アレス製)設置。
 1951(昭和26). 7. 23 51型感震器設置。
 1951(昭和26). 8. 1 51型強震計(すず書き。気象測器製作所製)観測開始。51型感震器、使用開始。
 1960(昭和35). 1. 17 ウィーヘルト式地震計(上下動)観測中止。
 1960(昭和35). 1. 18 ウィーヘルト式地震計(水平動)観測中止。
 1960(昭和35). 1. 20 59型光学式(500倍)及び直視式(すず書き)電磁地震計設置工事開始(24日まで)。
 1960(昭和35). 1. 21 59型光学式及び直視式電磁地震計、試験観測開始。
 1960(昭和35). 4. 1 59型光学式及び直視式電磁地震計、正式運用開始。
 1960(昭和35). 4. 59型直視式電磁地震計の上下動吊りバネをコエリンバーに交換。
 また、ガルバノメーターの横送り機構を修理。
 1961(昭和36). 3. 11 地震計台かさ上げ工事開始。59型電磁地震計観測休止。
 1961(昭和36). 4. 16 地震計台工事完了(約80cm高くした)。
 1962(昭和37). 4. 27 59型光学式電磁地震計に可変アッテネーターを取り付ける。
 1962(昭和37). 9. 6 51型強震計に振止め装置及び刻時装置を取付け。
 1962(昭和37). 10. 17 59型直視式電磁地震計の増幅部を一部改造。
 1963(昭和38). 2. 22 51型強震計、強力磁石に交換。
 1963(昭和38). 年度 60型くん煙装置設置。
 1965(昭和40). 4. 1 吾妻山、安達太良山火山観測のため、火山係新設。
 1965(昭和40). 7. 1 吾妻山白樺平 (37° 45' 26" N, 140° 18' 12" E, h=890m)、
 安達太良山塩沢 (37° 38' 34" N, 140° 20' 00" E, h=900m)にそれぞれ火山観測
 用62E型電磁地震計を設置、福島地方気象台を観測基地として観測開始(6月16日
 無線免許)。
 1968(昭和43). 6. 11 庁舎新築により、59型電磁地震計の観測休止。
 1968(昭和43). 10. 1 51型強震計、すず書きをインク書きに改造。
 1968(昭和43). 10. 16 51型強震計改造完了。
 1968(昭和43). 11. 59型地震計、オーバーホール。
 1969(昭和44). 1. 23 59型光学式地震計観測中止(測器保守簿による)。
 1969(昭和44). 2. 26 51型強震計新庁舎に移設。
 1969(昭和44). 3. 1 51型強震計観測再開。
 1969(昭和44). 5. 1 59型直視式電磁地震計、オーバーホール完了し、新庁舎地震計室にて、観測再開。
 1972(昭和47). 2. 13 50型強震計にプラスチック製防塵カバー取付け。
 1972(昭和47). 9. 16 59型直視式電磁地震計にゴミ取り装置取付け。
 1973(昭和48). 2. 16 59型直視式電磁地震計、インク書きへの改造のため観測休止。
 1973(昭和48). 3. 26 59型直視式電磁地震計改造完了、増幅器をトランジスター化し観測再開。
 1972(昭和47). 年度 59型直視式電磁地震計にゴミ取り装置を取付け。
 1975(昭和50). 11. 4 51型強震計起動器、ゼンマイ式を電動式に改造。
 1977(昭和52). 12. 1 59型検定用 2HZ発振器購入。
 1980(昭和55). 3. 25 59C型直視式電磁地震計、正式観測開始。
 59型直視式電磁地震計、観測中止。
 1981(昭和56). 年度 仙台 L-ADESS整備。地震資料伝送装置及び設置。白河と小名浜の67型及び強震計
 (水平成分)の地震波形を仙台へ中継伝送。
 1990(平成 2). 3. 1 仙台 L-ADESS更新、仙台ETOS運用開始。
 1994(平成 6). 4. 1 93型計測震度計による震度観測開始。
 1994(平成 6). 11. 1 51型強震計、運用中止。
 1995(平成 7). 3. 1 59C型直視式電磁地震計、運用中止。
 1996(平成 8). 2. 27 95型計測震度計による震度観測開始。93型計測震度計は観測中止。
 1996(平成 8). 4. 1 体感による震度観測中止。

地震計観測位置
 農事試験場内時代

N 37° 45' E 140° 24' H 不明

銚形験震器

- 1889(明治22). 8. 13 - 不明
 グレー・ミルン・ユーイング式普通地震計
 1895(明治28). - 不明
 中央気象台型簡単微動計
 1927(昭和 2). 4. - 1928(昭和 3). 2. 1

松木町時代

N 37° 45.4' E 140° 28.5' H 69. m

- 中央気象台型簡単微動計
 - 1928(昭和 3). 2. 1 - 不明
- ウィーヘルト式地震計
 - 1928(昭和 3). 11. 13 - 1960(昭和35). 1. 18
- 中央気象台型強震計
 - 1940(昭和15). 10. 14 - 1951(昭和26). 8. 1
- 51型強震計
 - 1951(昭和26). 8. 1 - 1994(平成 4). 11. 1
- 59型光学式電磁地震計
 - 1960(昭和35). 1. 21 - 1980(昭和55). 3. 25
- 59型直視式電磁地震計
 - 1960(昭和35). 1. 21 - 1980(昭和55). 3. 25
- 59C型直視式電磁地震計
 - 1980(昭和55). 3. 25 - 1995(平成 7). 3. 1
- 計測震度計
 - 1994(平成 6). 4. 1 -

小名浜:Onahama

JMAコード: ONAHAM、USGSコード: ONA

官署来歴

- 1910(明治43). 4. 28 福島県立福島測候所小名浜出張所創立(福島県所管)。
- 1937(昭和12). 10. 28 国営移管、中央気象台小名浜観測所となる(文部省所管)。
- 1938(昭和13). 7. 15 中央気象台小名浜測候所となる。
- 1939(昭和14). 11. 1 小名浜測候所となる。

震度観測地点

- 1910(明治43). 4. 28 石城郡小名浜町古港20番地 県水産試験場内
N 36° 56' E 140° 54' H 2.9m(露)
- 1923(大正12). 4. 1 石城郡小名浜町字船引場19番地(移転)
N 36° 56.7' E 140° 54.4' H 4.5m(露)
- 1954(昭和29). 3. 31 磐城市字船引場19番地(住居表示変更)
- 1966(昭和41). 10. 1 いわき市小名浜字船引場19番地(住居表示変更)

地震観測履歴

- 1923(大正12). 7. 16 中村式簡単微動計設置、地震観測開始。
- 1926(大正15). . . 中村式簡単微動計(NS、アレス製、9、電磁制振、倍率50倍、南北動固有周期5.8秒、摩擦値0.015、制振度2.0、東西動固有周期5.2秒、摩擦値0.006、制振度1.5)、無線報時
- 1938(昭和13). 6. 13 ウィーヘルト式地震計(3成分。アレス)、中央気象台型強震計(アレス。2倍)観測開始。
- 1945(昭和20). 1. 1 中村式簡単微動計、観測中止。
- 1951(昭和26). 8. 1 51型感震器設置。
- 1951(昭和26). 10. 1 51型強震計(すず書き。気象測器製作所製)観測開始。
- 1957(昭和32). 5. 21 時報検出装置、使用開始。
- 1958(昭和33). 4. 1 クロノメータ、使用開始。
- 1958(昭和33). 8. 14 51型強震計の起動器交換。
- 1959(昭和34). 2. 13 51B型感震器設置。
- 1960(昭和35). 1. 22 ウィーヘルト式地震計(水平動)観測中止。
- 1960(昭和35). 1. 26 59型光学式(70倍)及び直視式電磁地震計(すず書き)設置工事開始。27日まで。ウィーヘルト式地震計(上下動)観測中止。
- 1960(昭和35). 4. 1 59型光学式及び直視式電磁地震計、正式運用開始。
- 1960(昭和35). 4. . . 59型直視式電磁地震計の上下動吊りバネをコエリンバーに交換。また、ガルバノメータの横送り機構を修理。
- 1962(昭和37). 8. 10 51型強震計に振止装置を取付け。
- 1962(昭和37). 9. 4 51型強震計に刻時装置を取付け。
- 1963(昭和38). 10. 26 60型くん煙装置設置。
- 1966(昭和41). 8. 1 雑微動大きく、59型光学式電磁地震計、観測休止。

- 1968(昭和43). 10. 1 気象研究所に協力し地中地震計による雑微動調査を開始。
- 1969(昭和44). 1. 8 59型直視式電磁地震計、オーバーホールのため撤去。
- 1969(昭和44). 3. 31 気象研究所に協力し地中地震計による雑微動調査を終了。
- 1969(昭和44). 5. 1 59型直視式電磁地震計、オーバーホール完了し、観測再開。
- 1969(昭和44). 6. 1 地中地震計運用開始。
- 1969(昭和44). 10. 17 51型強震計、すず書きをインク書きに改造。
- 1971(昭和46). 1. 25 67型磁気テープ記録式電磁地震計(埋設型:100.0m)設置。
- 1971(昭和46). 2. 14 地中地震計、観測中止。
- 1971(昭和46). 2. 15 67型磁気テープ記録式電磁地震計、試験運用開始。
- 1971(昭和46). 6. 1 67型磁気テープ記録式電磁地震計、正式運用開始。
- 59型光学式電磁地震計、観測中止。
- 1971(昭和46). 10. 8 51型強震計台のかさ上げ工事開始。
- 1971(昭和46). 10. 29 強震計台のかさ上げ工事完了。
- 1971(昭和46). 10. 29 59型直視式電磁地震計の配線工事実施。
- 1971(昭和46). 11. 18 67型磁気テープ記録式電磁地震計の時刻符号化装置、使用開始。
- 1972(昭和47). 年度 59型直視式電磁地震計増幅器をトランジスター化。
- 1973(昭和48). 1. 19 59型直視式電磁地震計、インク書きへの改造のため観測休止。
- 1973(昭和48). 2. 14 59型直視式電磁地震計改造完了し観測再開。
- 1972(昭和47). 年度 59型直視式電磁地震計にゴミ取り装置を取付け。
- 1976(昭和51). 11. 1 51型強震計起動器、ゼンマイ式を電動式に改造。
- 1978(昭和53). 6. 5 庁舎改築に伴い、地震観測機器を移設。
- 1979(昭和54). 1. 18 新庁舎への地震計移設。
- 1980(昭和55). 3. 21 59C型直視式電磁地震計、正式観測開始。59型直視式電磁地震計、観測中止。
- 1982(昭和57). 3. 1 仙台L-ADESS整備。地震資料伝送装置及び強震計変換器設置。
- 67型及び強震計(水平成分)の地震波形、福島を中継し電話回線により仙台へ伝送。
- 時刻符号化装置配分。
- 1986(昭和61). 4. 23 87型電磁式強震計、設置。
- 1988(昭和63). 3. 31 87型電磁式強震計、試験運用開始。
- 1988(昭和63). 8. 5 87型電磁式強震計による一般通報観測、正式運用開始。
- 1989(平成 1). 6. 1 87型電磁式強震計による調査観測、正式運用開始。
- 1989(平成 1). 10. 1 88型小地震観測装置データ伝送のためのNTT回線工事。
- 1990(平成 2). 1. 19 88型小地震観測装置の地震波形、仙台管区へ伝送開始。(観測局:水石山、中継局:小名浜測候所)
- 67型磁気テープ記録式電磁地震計の仙台への波形伝送中止。
- 1990(平成 2). 4. 24 88型小地震観測装置、運用開始。
- 59C型直視式電磁地震計、87型電磁式強震計の波形も88型と同時に仙台へ伝送。
- 1990(平成 2). 10. 30 87型電磁式強震計、改修作業及び59C型直視式電磁地震計から外部トリガー信号取込みの工事实施。
- 1990(平成 2). 11. 19 88型小地震観測装置、記録器改修工事。
- 1990(平成 2). 12. 7 67型磁気テープ記録式電磁地震計、運用中止し撤去。
- 地震資料伝送システム送信装置、51型強震計変換器撤去。
- 1991(平成 3). 3. 31 51型強震計、運用中止。
- 1991(平成 3). 9. 2 51型強震計、撤去。
- 1993(平成 5). 2. 15 90型計測震度計設置、試験運用開始。
- 1993(平成 5). 4. 1 90型計測震度計による震度観測開始。
- 1993(平成 5). 4. 6 88型小地震観測装置用に、中継局に無停電電源装置を設置。
- 1993(平成 5). 4. 7 88型小地震観測装置中継局のパラメータ変更。
- 1994(平成 6). 10. 31 59C型直視式電磁地震計、運用中止。
- 1996(平成 8). 4. 1 体感による震度観測中止。
- 1996(平成 8). 10. 14 87型電磁式強震計、障害のため運用休止。
- 1997(平成 9). 3. 31 87型電磁式強震計、運用中止。
- 1998(平成10). 1. 28 88型小地震観測装置及び検潮データをL-ADESS回線に接続。

地震計観測位置

N 36° 56.7' E 140° 54.4' H 5. m

中村式簡単微動計

1923(大正12). 7. 16 - 1945(昭和20). 1. 1

ウィーヘルト式地震計

1938(昭和13). 6. 13 - 1960(昭和35). 1. 26

中央気象台型強震計

1938(昭和13). 6. 13 - 1951(昭和26). 10. 1
 51型強震計
 1951(昭和26). 10. 1 - 1991(平成 3). 3. 31
 59型光学式電磁地震計
 1960(昭和35). 4. 1 - 1966(昭和41). 8. 1
 1969(昭和44). 5. 1 - 1971(昭和46). 6. 1
 59型直視式電磁地震計
 1960(昭和35). 4. 1 - 1969(昭和44). 1. 8
 1969(昭和44). 5. 1 - 1980(昭和55). 3. 21
 地中地震計
 1969(昭和44). 6. 1 - 1971(昭和46). 2. 14 (H 不明)
 67型磁気テープ記録式電磁地震計(埋設深度102m)
 1971(昭和46). 6. 1 - 1990(平成 2). 12. 7 (H - 97. m)
 59C型直視式電磁地震計
 1980(昭和55). 3. 21 - 1994(平成 6). 11. 1
 87型電磁式強震計
 1988(昭和63). 8. 5 - 1997(平成 9). 3. 31
 90型計測震度計
 1993(平成 5). 4. 1 -

隔測地震計

88型小地震観測装置(小名浜2)
 1990(平成 2). 4. 24 -

【マイクロフィルム化されている一番古い地震記象紙】

1923年(大正12年)9月14日中村式簡単微動計

津波観測業務履歴

1951(昭和26). 1. 1 検潮観測開始。
 1979(昭和54). 5. 17 小名浜検潮所の遠隔検潮装置、運用開始。仙台へ隔測化。
 1981(昭和56). 2. 20 津波観測の実施官署となる(観測地点：小名浜)。
 1981(昭和56). 3. 16 津波観測の実施官署としての業務開始。
 1996(平成 8). 4. 1 巨大津波観測装置運用開始。
 1999(平成11). 9. 9 巨大津波観測装置感部、港湾改修のため移設。
 2000(平成12). 12. 5 小名浜検潮所、デジタル式フース型検潮儀(DFT-2)に更新。

津波観測位置

小名浜検潮所

1951(昭和26). 1. 1 - 1977(昭和52). 7. 1
 いわき市小名浜大字下神白字綱取
 N 36° 56' E 140° 55'
 1977(昭和52). 7. 1 -
 いわき市小名浜字高山4号埠頭(移転)
 N 36° 56' 02" E 140° 53' 43"

巨大津波観測装置

1996(平成 8). 4. 1 - 1999(平成11). 9. 9
 いわき市小名浜下神白字松下13-2 福島県水産試験場
 N 36° 56' 00" E 140° 55' 11"
 感部の高さDL小名浜潮位観測基準面上6.66m
 1999(平成11). 9. 9 -
 いわき市小名浜下神白字松下13-2 福島県水産試験場
 N 36° 56' 00" E 140° 55' 11"
 感部の高さDL小名浜潮位観測基準面上5.65m

白河:Shirakawa

JMAコード:SHIRAK、USGSコード:SHR

官署来歴

1940(昭和15). 2. 17 白河測候所創立。(文部省所管、前身は白河森林測候所)

1998(平成10). 3. 1. 白河特別地域気象観測所となる。

震度観測地点

1940(昭和15). 2. 17 西白河郡白河町字寺小路28
N 37° 07.1' E 140° 13.5' H 353.6m
1949(昭和24). 4. 1 白河市字寺小路28(住居表示変更)
1994(平成 6). 1. 28 白河市字郭内1-136 白河小峰城合同庁舎(移転)
N 37° 07.7' E 140° 13.2' H 355. m

地震観測履歴

1941(昭和16). 7. 10 中央気象台型簡単微動計(緑明舎製)設置。
1941(昭和16). 9. 1 中央気象台型簡単微動計、観測開始。
1942(昭和17). 9. 那須山の遠望観測開始。
1947(昭和22). 9. 1 地震計による観測休止。
1948(昭和23). 4. 1 地震計による観測再開。
1952(昭和27). 9. 中央気象台型強震計(アレス製)観測開始。
1959(昭和34). 10. 1 52B型(すす書き。気象測器製作所製)強震計、観測開始。
1960(昭和35). 6. 1 54C型普通地震計観測開始。中央記象台型簡単微動計、観測中止。
1961(昭和36). 6. 1 那須山の現地観測中止。
1962(昭和37). 3. 那須山の遠望観測中止(宇都宮地方気象台に業務移管)。
1962(昭和37). 年度 52B型強震計に振止め装置及び刻時装置を取付け。
1966(昭和41). 9. 3 52B型強震計、すす書きをインク書きに改造。
1971(昭和46). 2. 9 67型磁気テープ記録式電磁地震計(埋設型: 21.0m)設置、試験運用開始。
1971(昭和46). 6. 1 67型磁気テープ記録式電磁地震計、正式運用開始。54C型普通地震計、観測中止。
1977(昭和52). 10. 18 67型磁気テープ記録式電磁地震計の速報装置、秋田から移設。
67型地震計の地震波形を電話回線により、仙台へ伝送、運用開始。
1978(昭和53). 3. 3 52B型強震計起動器、ゼンマイ式を電動式に改造。
1981(昭和56). 年度 仙台 L-ADESS整備。地震資料伝送装置及び強震計変換器を設置。67型及び強震計(水平成分)の地震波形、福島を中継し電話回線により仙台へ伝送。
1982(昭和57). 10. 1 仙台 L-ADESS、正式運用開始。
1990(平成 2). 4. 24 88型小地震観測装置を西白河郡表郷村に設置し、白河測候所を中継し、仙台管区へ波形伝送開始。67型磁気テープ記録式電磁地震の波形伝送は中止。
1990(平成 2). 6. 8 88型小地震観測装置、運用開始。
67型磁気テープ記録式電磁地震計、運用中止。
1992(平成 4). 2. 13 90型計測震度計、設置工事实施。
1992(平成 4). 3. 13 90型計測震度計、試験運用開始。
1992(平成 4). 4. 1 90型計測震度計による震度観測開始。
1994(平成 6). 1. 26 庁舎移転のため、52B型強震計、90型計測震度計観測休止。
1994(平成 6). 1. 27 庁舎移転のため、88型小地震観測装置の波形伝送休止。
1994(平成 6). 1. 28 新庁舎に移設完了。52B型強震計、90型計測震度計、観測再開。
88型小地震観測装置の波形伝送も再開。
92型電磁式強震計、試験運用開始。仙台管区へ波形伝送していた52B型強震計に代えて、92型電磁式強震計となる。
1994(平成 6). 11. 1 52B型強震計、運用中止。92型電磁式強震計の波形伝送中止。
1995(平成 7). 7. 12 88型小地震観測装置、運用休止。
1996(平成 8). 3. 31 88型小地震観測装置、運用中止。
1997(平成 9). 3. 31 92型電磁式強震計、運用中止。

地震計観測位置

寺小路時代

N 37° 07.1' E 140° 13.5' H 354. m

中央気象台型簡単微動計

1941(昭和16). 9. 1 - 1947(昭和22). 9. 1
1948(昭和23). 4. 1 - 1960(昭和35). 6. 1

中央気象台型強震計

1952(昭和27). 9. - 1959(昭和34). 10. 1

52B型強震計

1959(昭和34). 10. 1 - 1994(平成 6). 1. 26

54C型普通地震計

1960(昭和35). 6. 1 - 1971(昭和46). 6. 1

67型磁気テープ記録式電磁地震計

1971(昭和46). 2. 9 - 1990(平成 2). 6. 8

90型計測震度計

1992(平成 4). 4. 1 - 1994(平成 6). 1. 26

小峰城合同庁舎時代

N 37° 07.7' E 140° 13.2' H 355. m

52B型強震計

1994(平成 6). 1. 28 - 1994(平成 6). 11. 1

90型計測震度計

1994(平成 6). 1. 28 -

92型電磁式強震計

1994(平成 6). 1. 28 - 1997(平成 9). 3. 31

隔測地震計

88型小地震観測装置(白河2)

1990(平成 2). 6. 8 - 1996(平成 8). 3. 31

【マイクロフィルム化されている一番古い地震記象紙】

1941年(昭和16年)

若松:Wakamatsu

JMAコード: WAKAMA

官署来歴

1953(昭和28). 7. 15 猪苗代測候所を廃止。若松測候所新設業務開始。

震度観測地点

1953(昭和28). 7. 15 会津若松市材木町 90の口
N 37° 29.1' E 139° 54.8' H 212.2m(気)

1959(昭和34). 3. 29 会津若松市材木町89の3(住居表示変更)

1965(昭和40). 11. 20 会津若松市材木町1丁目9の49(住居表示変更)

地震観測履歴

1964(昭和39). 年度 地震計室新築工事完了。

1965(昭和40). 7. 1 磐梯山の火山観測のため、磐梯山猪苗代スキー場
(37° 34' 54" N、140° 04' 56" E、h=1000m)に無線式62E型電磁地震計を設置、
若松測候所を観測基地として観測を開始。地震計室新築工事完了。

1988(昭和63). 8. 5 87型電磁式強震計、試験運用開始。

1989(平成 1). 6. 1 87型電磁式強震計による一般通報観測、正式運用開始。

1989(平成 1). 10. 1 87型電磁式強震計による調査観測、正式運用開始。

1993(平成 5). 4. 1 90型計測震度計による震度観測開始。

1996(平成 8). 4. 1 体感による震度観測中止。

1997(平成 9). 3. 31 87型電磁式強震計、運用中止。

2000(平成12). 10. 27 62E型電磁地震計運用中止。

2000(平成12). 11. 2 L-4C地震計、磐梯山猪苗代スキー場
(37° 34' 51" N、140° 04' 59" E、h=995m)に設置、正式運用開始。

地震計観測位置

N 37° 29.1' E 139° 54.8' H 212. m

87型電磁式強震計

1988(昭和63). 8. 5 - 1997(平成 9). 3. 31

N 37° 29.1' E 139° 54.8' H 212. m

90型計測震度計

1993(平成 5). 4. 1 -

小名浜2:Onahama2

JMAコード: ONAHA2、USGSコード: ONAJ

観測点来歴

1990(平成 2). 4. 24 無人観測点開設。
いわき市三和町合戸字内畑 280水石山に開設
N 37° 06.1' E 140° 47.9' H 665m

地震観測装置履歴

1990(平成 2). 1. 19 88型小地震観測装置データ伝送のためのNTT回線工事。
1990(平成 2). 2. 17 88型小地震観測装置、感部埋設工事開始。
1990(平成 2). 2. 23 88型小地震観測装置、本体設置工事開始。
1990(平成 2). 3. 1 88型小地震観測装置の地震波形、仙台管区へ伝送開始。
(観測局：水石山、中継局：小名浜測候所)
1990(平成 2). 4. 24 88型小地震観測装置、運用開始。
1993(平成 5). 4. 6 88型小地震観測装置用に、中継局に無停電電源装置を設置。
1993(平成 5). 4. 7 88型小地震観測装置中継局のパラメータ変更。
1993(平成 5). 12. 9 88型小地震観測装置観測局の漏電ブレーカー改修工事。

地震計観測位置

N 37° 06.1' E 140° 47.9' H 660. m

88型小地震観測装置

1990(平成 2). 4. 24 -

白河2:Shirakawa2

JMAコード：SHIRA2、USGSコード：SHRJ

観測点来歴

1990(平成 2). 6. 8 無人観測点開設。
西白河郡表郷村大字内松字滝ヶ沢21
N 37° 04.6' E 140° 14.0' H 不明

地震観測履歴

1990(平成 2). 2. 22 88型小地震観測装置、設置工事。
(観測局：表郷村、中継局：白河測候所)
1990(平成 2). 4. 24 88型小地震観測装置の地震波形、仙台管区へ伝送開始。
1990(平成 2). 6. 8 88型小地震観測装置、運用開始。
1994(平成 6). 1. 27 中継局の白河測候所の移転作業のため、波形伝送休止。
1994(平成 6). 1. 28 中継局の白河測候所の移転作業完了し、波形伝送再開。
1995(平成 7). 7. 12 88型小地震観測装置、運用休止。
1996(平成 8). 3. 31 88型小地震観測装置、運用中止。

地震計観測位置

N 37° 04.6' E 140° 14.0' H 395. m

88型小地震観測装置

1990(平成 2). 6. 8 - 1996(平成 8). 3. 31

猪苗代:Inawashiro(会津:Aizu)

JMAコード：INAWAS、USGSコード：AID

官署来歴

1923(大正12). 2. 1 福島県立福島測候所会津出張所創立。
1938(昭和13). 10. 1 福島県立猪苗代測候所となる。
1939(昭和14). 11. 1 国営移管、中央気象台猪苗代観測所となる。(文部省所管)
1943(昭和18). 10. 1 福島測候所猪苗代観測所となる。
1947(昭和22). 4. 30 仙台管区気象台猪苗代観測所となる。
1950(昭和25). 6. 1 猪苗代測候所となる。
1953(昭和28). 7. 15 猪苗代測候所廃止。

震度観測地点

1923(大正12). 2. 1 猪苗代町東 465
N 37° 34' E 140° 07' H 525.6m

地震観測履歴

- 1923(大正12). 9. 1 関東地震について地震計による観測あり。
1924(大正13). 1. 1 中村式簡単微動計、観測開始。
1926(大正15). . . 中村式簡単微動計(MS、アレク製、8、電磁制振、倍率50倍、固有周期南北動6.7秒、東西動6.6秒、摩擦値南北動0.123、東西動0.160、制振度南北動2.7、東西動3.4)、電信報時
1944(昭和19). 1. 31 中村式簡単微動計、故障のため観測休止。
1951(昭和26). 11. 1 中村式簡単微動計、観測再開。
1953(昭和28). 7. 15 猪苗代測候所廃止したが、地震観測を継続。
1955(昭和30). 12. 31 地震観測中止。

地震計観測位置

N 37° 34' E 140° 07' H 525. m

中村式簡単微動計

- 1924(大正13). 1. 1 - 1944(昭和19). 1. 31
1951(昭和26). 11. 1 - 1955(昭和30). 12. 31

【マイクロフィルム化されている一番古い地震記象紙】

1923年(大正12年)